

相談者の思いを受け止め、
思いを引き出す教育相談のために
～学校全体の教育相談力の向上を目指して～

詳細版

令和7年度山形県教育センター長期研修生（前期6ヶ月）
山形県立楯岡特別支援学校寒河江校 笹原 祥子

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

Ⅰ 研究のねらい



教育相談の難しさ
ベテラン教員との差を実感

教員歴や経験によって、教育相談の進め方や捉え方
その背景にある意識に**差**がある



この**差**を埋める取り組みが
学校全体の教育相談力の向上につながる？

★本研究における教育相談の捉え方

「学校における教育相談は、決して特定の教員が行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものでもない。(中略)したがって、教育相談は、学校の教育活動全体を通じて、また全ての教員がさまざまな時と場所において、適切に行うことが必要である。」

教育相談等に関する調査研究協力者会議

『児童生徒の教育相談の充実について～生き生きとした子どもを育てる相談体制づくり～(報告)』より



教育相談は、特定の場所や形式に限定されない、学校生活全般に及ぶ広範な活動

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査

- ・実態の把握
- ・課題の抽出

(2) 実践研究

- ・アンケート結果を反映した研修会の実施
- ・振り返り、効果の検証

(3) 聞き取り調査

- ・各校の実態の把握
- ・(1)(2)以外の視点から掘り下げ

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査

対象：村山地区 特別支援学校9校 小学部教員

対象選定の理由：「児童生徒本人との教育相談より

本人に一番近い存在の保護者との相談の機会が多い」

という所属校と共通した条件で回答の集計、分析を行うため

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査

- ①教育相談の中で困難を感じる場面
- ②教育相談の中で手応えを感じる場面
- ③相談の場面で心掛けていること、その理由
- ④教育相談をテーマとした校内研修の有無、研修の形態
- ⑤校内研修の内容
- ⑥校内研修で学んでみたい内容

これらの項目は教員歴によって
どのような違いが見られるのか？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査

教員歴は、山形県教員指標に基づき

～3年目（始発期） 4～10年目（成長期）

11～20年目（充実期） 21年目～（組織運営期） の4段階に分類

③の項目では、教育相談のプロセスを以下のように5つのフェーズに段階化し、回答を分類した。



参考：『先生のための保護者相談ハンドブック ー配慮を要する子どもの保護者とつながる3つの技術』

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

質問項目①

保護者との教育相談で「困ったな」「難しいな」と感じるのは、どんなときですか。

選択肢

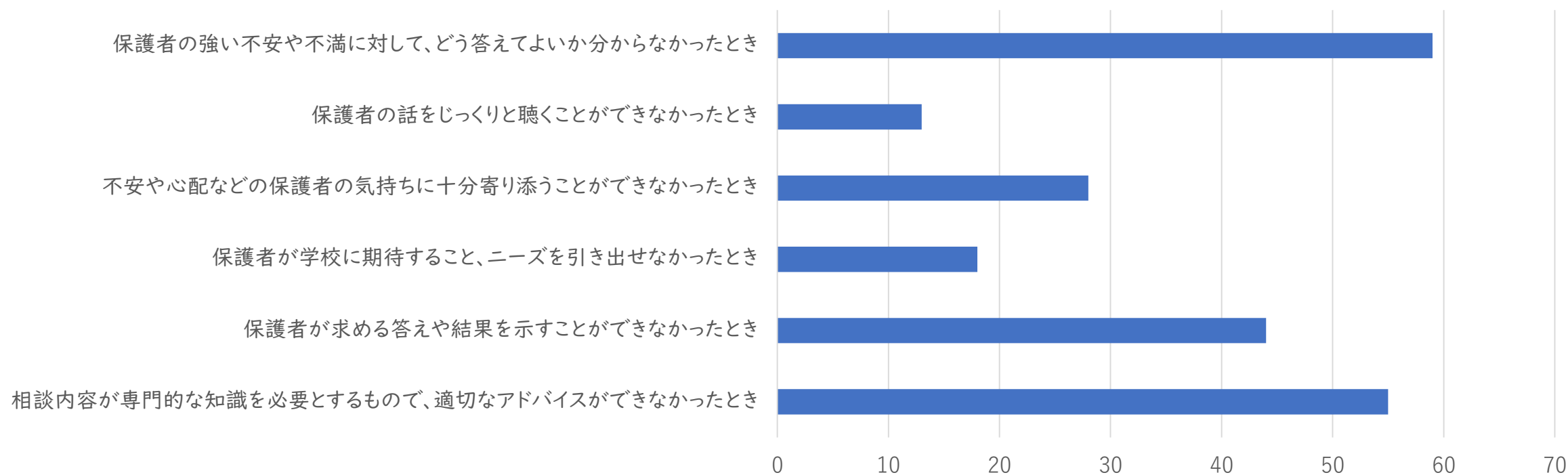
- ①保護者の強い不安や不満に対して、どう答えてよいか分からなかったとき
- ②保護者の話をじっくりと聴くことができなかったとき
- ③不安や心配などの保護者の気持ちに十分寄り添うことができなかったとき
- ④保護者が学校に期待すること、ニーズを引き出せなかったとき
- ⑤保護者が求める答えや結果を示すことができなかったとき
- ⑥相談内容が専門的な知識を必要とするもので、適切なアドバイスができなかったとき

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

回答全体のグラフ

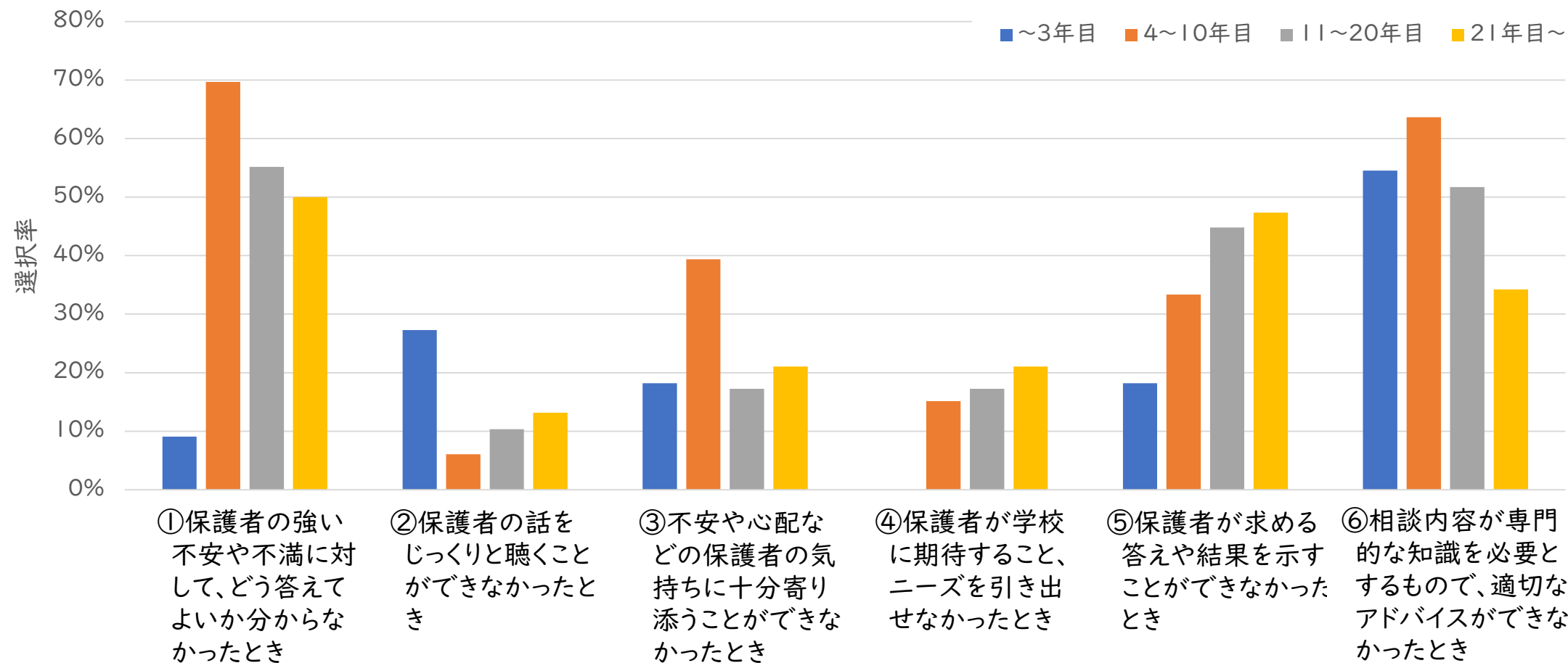
保護者との教育相談で「困ったな」「難しいな」と感じる場面



2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

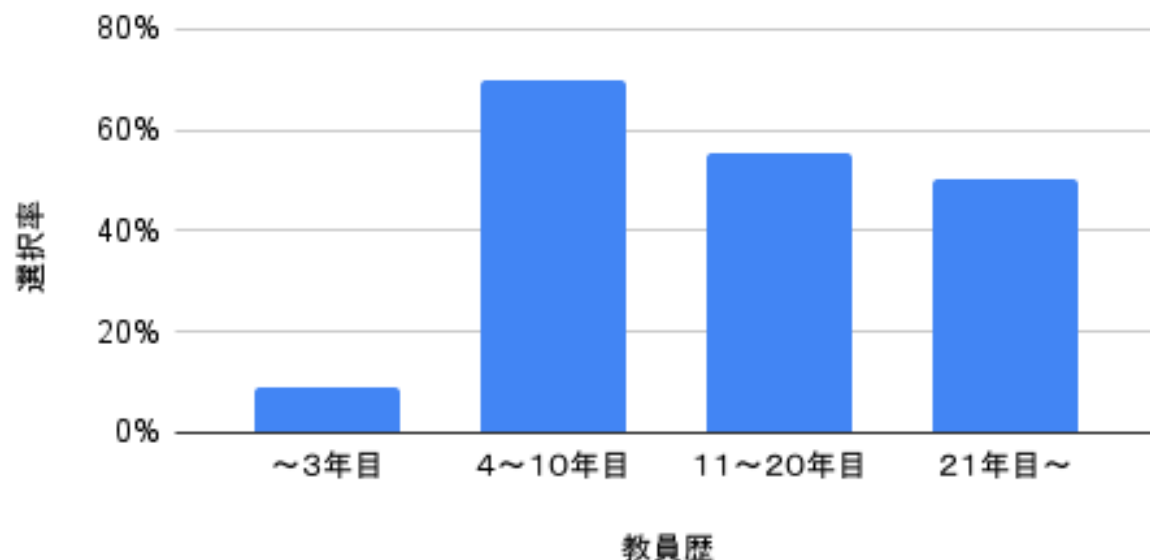
項目①保護者との教育相談で「困ったな」「難しいな」と感じる場面



2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

①保護者の強い不安や不満に対して、どう答えてよいか分からなかったとき

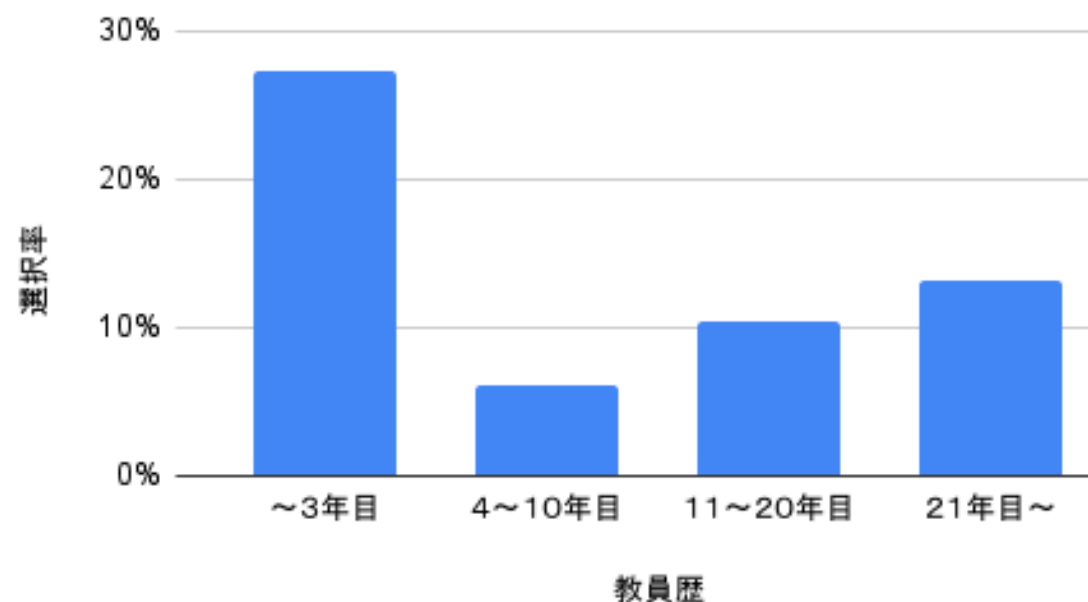


4～10年目の教員が最も高い選択率。
→始発期を過ぎ、「経験の浅い新任者」
として扱われなくなり、保護者も「一人
の教員」として接するようになる。経験
を重ねる中で保護者の不安や不満への
対応に難しさを感じる場面にも多く
直面するようになるのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

②保護者の話をじっくりと聴くことができなかったとき

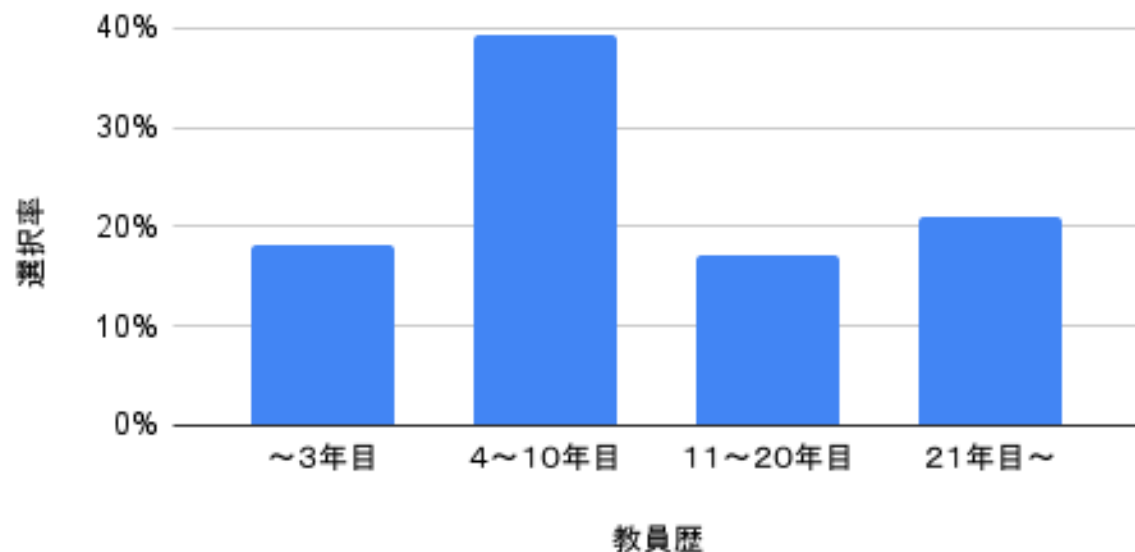


~3年目の教員が最も高い選択率。
→「話を聴くこと」は、保護者との信頼関係の構築や安心感の形成に欠かせない要素。実際の保護者との関わりの中で、教育相談の基本姿勢にあたる事柄について、課題感やつまずきを感じるようになるのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

③不安や心配などの保護者の気持ちに十分寄り添うことができなかったとき

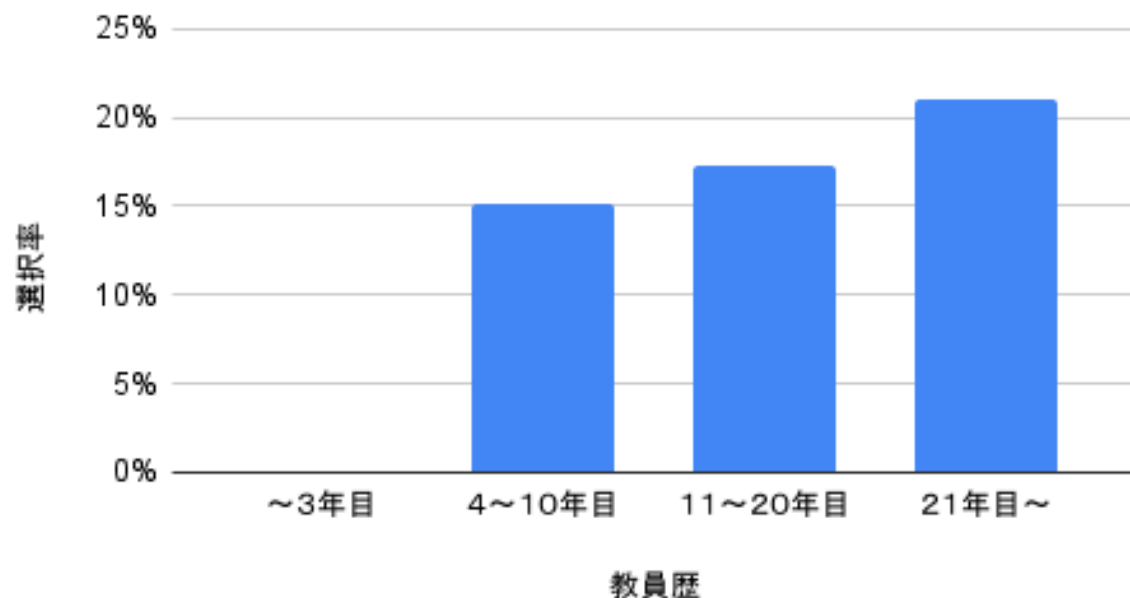


4~10年目教員の選択率が最も高い。
→「話を聴く」から1段階ステップアップした悩み？現場での経験を積みながらも、保護者との深い信頼関係の構築や感情の受け止め方にはまだ試行錯誤している段階にあるのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

④保護者が学校に期待すること、ニーズを引き出せなかったとき



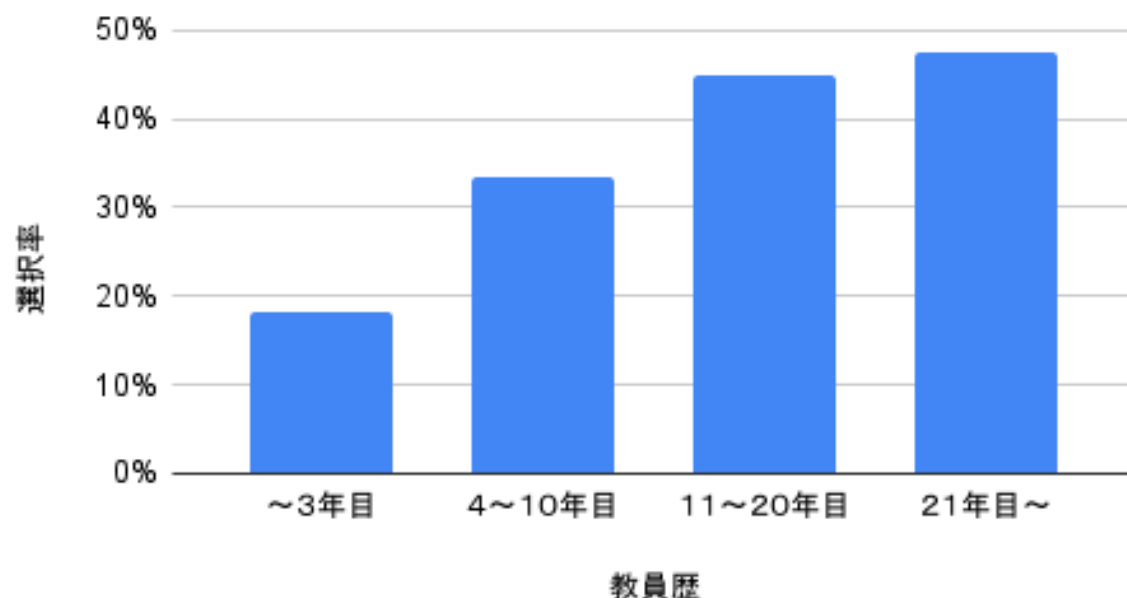
21年目~教員の選択率が最も高く、
~3年目教員の選択率は0%。

→ある程度経験が積み重なっていく中で、様々な保護者とのやり取りの中でより多様で複雑なニーズに触れることで、それらのニーズの引き出し方に難しさを感じるようになる? ~3年目教員は、「ニーズを引き出す」段階までの経験が少ない?

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

⑤保護者が求める答えや結果を示すことができなかったとき



経験年数が長いほど選択率が増加。

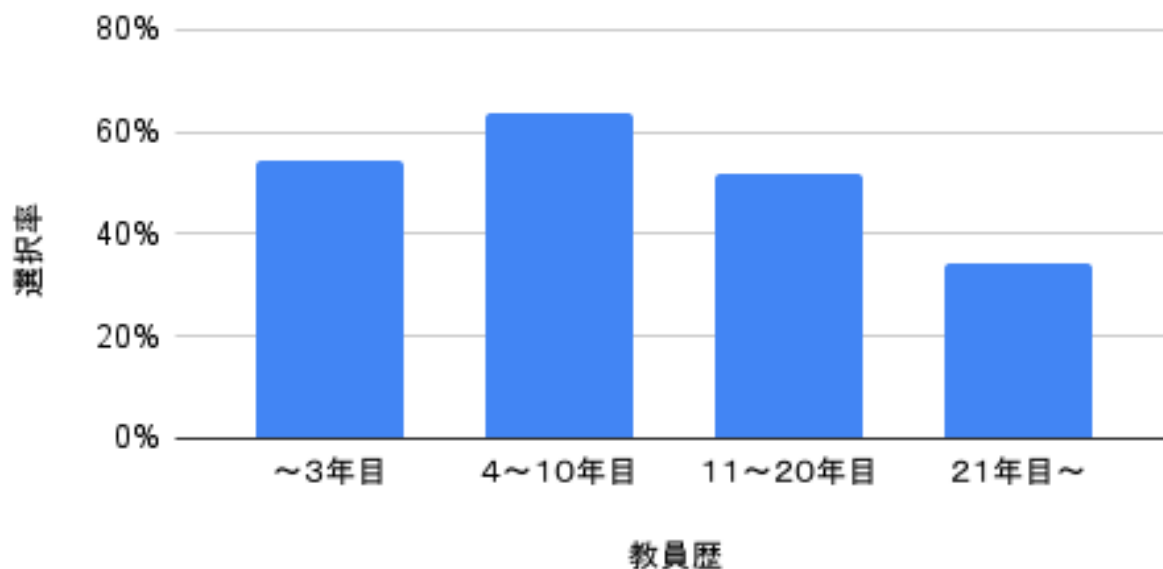
→教員としての経験が長くなり、多くの相談者と関わる機会が増える。その中で、すぐに答えを提示できない複雑な問題や多様なニーズに直面する機会も増加する？

保護者との関係性が深まる分、「保護者の期待に応えなければ」という思いや責任感が強まるのではないか？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目①について

⑥相談内容が専門的な知識を必要とするもので、適切なアドバイスができなかったとき



4~10年目教員の選択率が最も高く、次いで~3年目教員の選択率が高い。

→現場での経験を積み、保護者との関わり方がある程度見えてきた一方でより専門的な知識が要求される相談に直面し、知識やアドバイスの限界を感じているのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目②について

質問項目②

保護者との教育相談で「手応えがあった」「うまくかかわれた」と感じるのは、どんなときですか。

選択肢

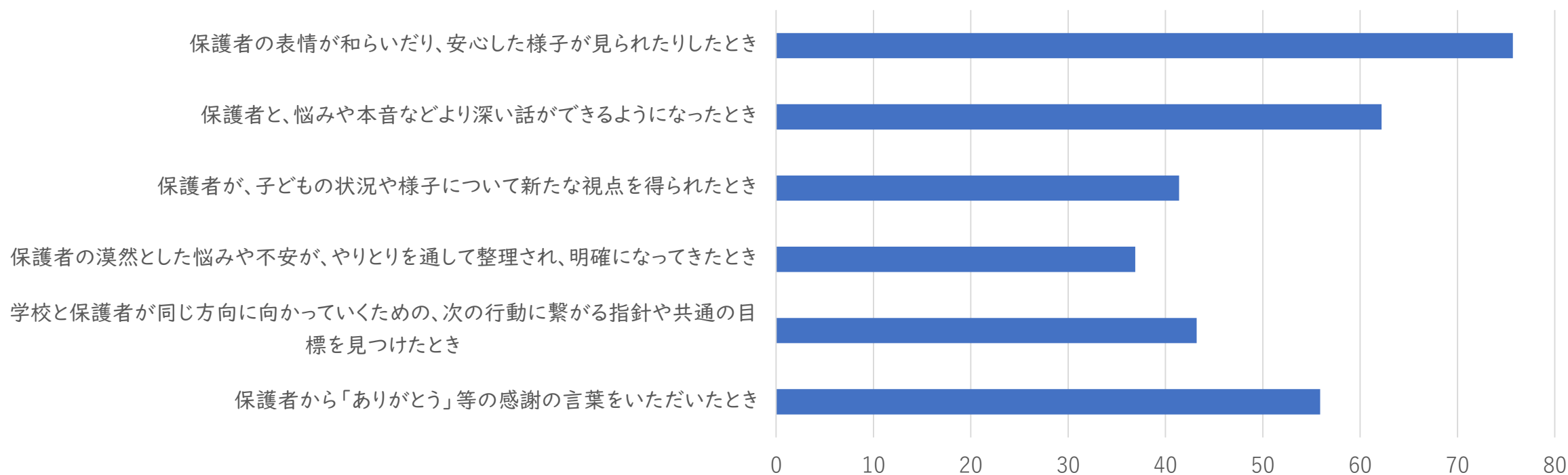
- ①保護者の表情が和らいだり、安心した様子が見られたりしたとき
- ②保護者と、悩みや本音などより深い話ができるようになったとき
- ③保護者が、子どもの状況や様子について新たな視点を得られたとき
- ④保護者の漠然とした悩みや不安が、やり取りを通して整理され、明確になってきたとき
- ⑤学校と保護者が同じ方向に向かっていくための、次の行動につながる指針や共通の目標を見つけたとき
- ⑥保護者から「ありがとう」などの感謝の言葉をいただいたとき

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目②について

回答全体のグラフ

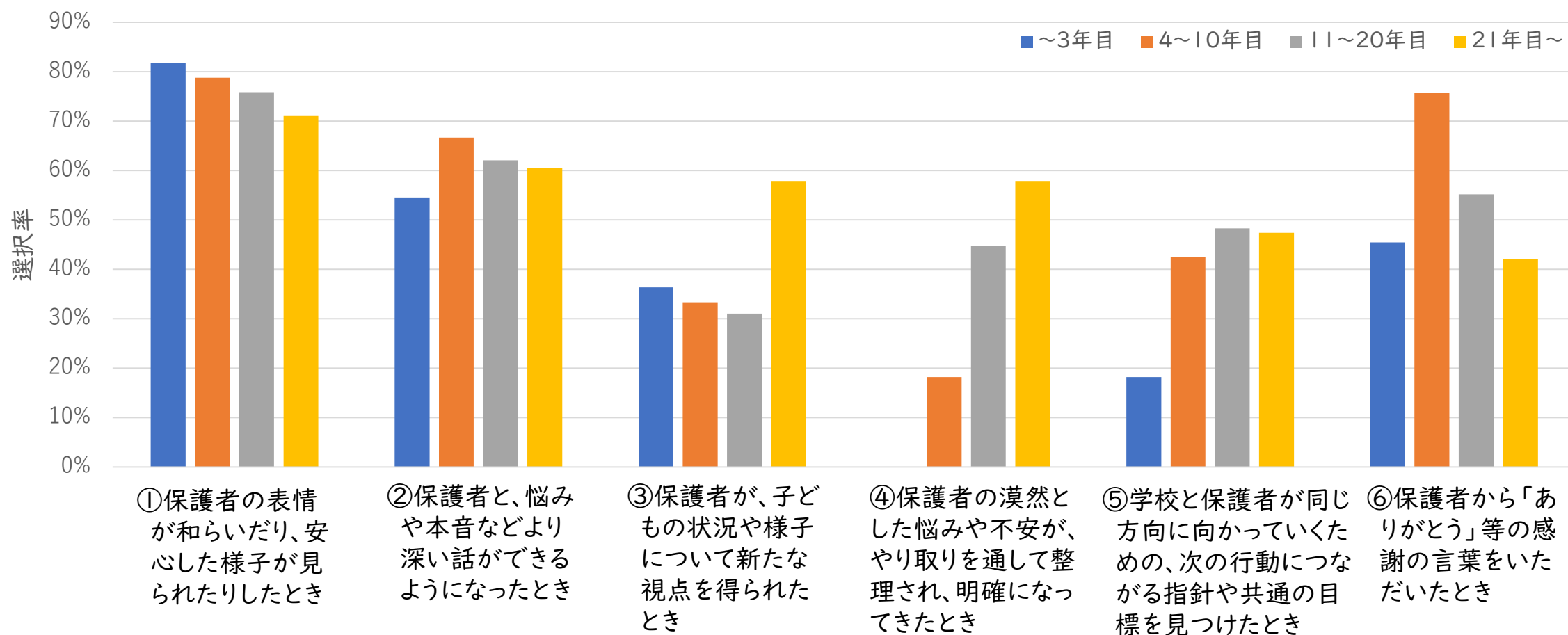
保護者との教育相談で「手応えがあった」「うまくかかわれた」と感じる場面



2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目②について

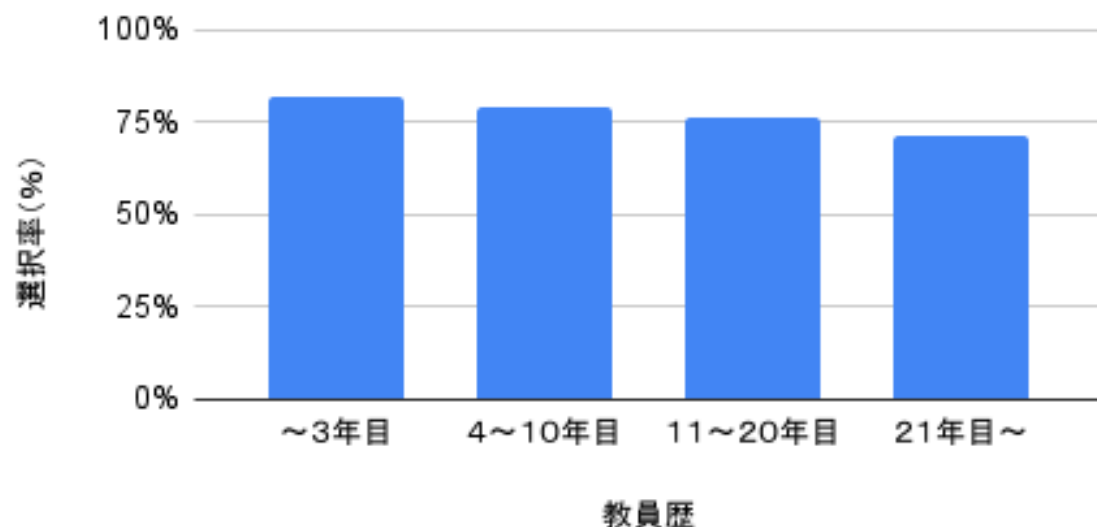
項目②保護者との教育相談で「手応えがあった」「うまくかかわれた」と感じる場面



2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目②について

①保護者の表情が和らいだり、安心した様子が見られたりしたとき



~3年目教員が最も高い選択率を示すが、教員歴による大きな差は見られない。

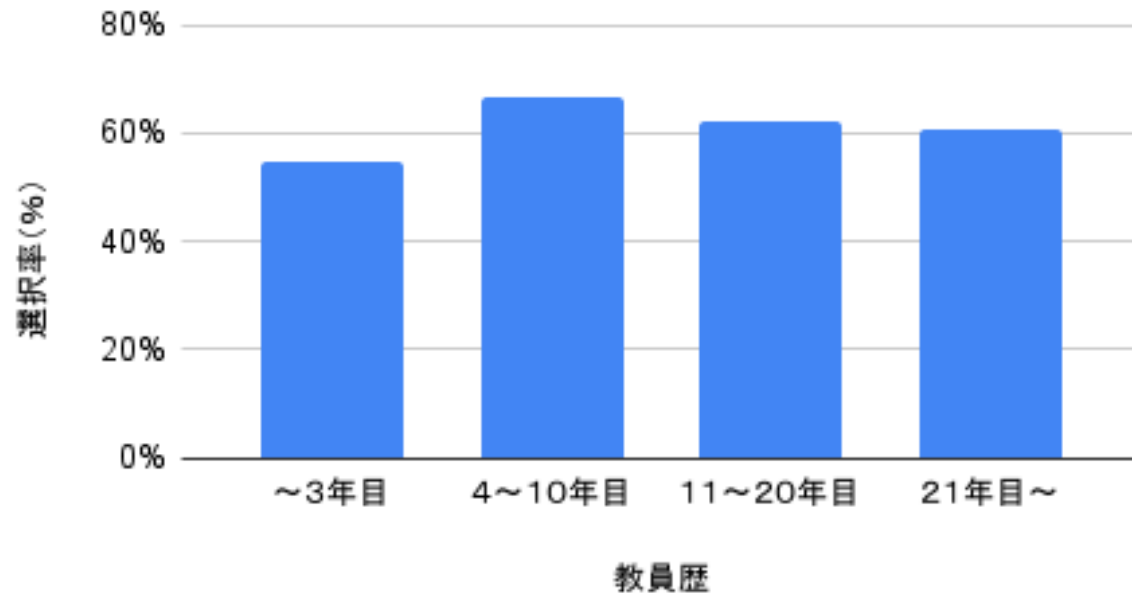
→保護者の様子を手掛かりに自己評価することは共通しているが、若手ほど視覚的な変化に反応している。

経験を積むことで、表情など目に見える情報だけでなく、相談後の変容や関係性の変化など手応えを感じる要素が多面的になるのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目②について

②保護者と、悩みや本音などより深い話ができるようになったとき



いずれの教員歴においても高い選択率を示すが、~3年目教員が最も低い。

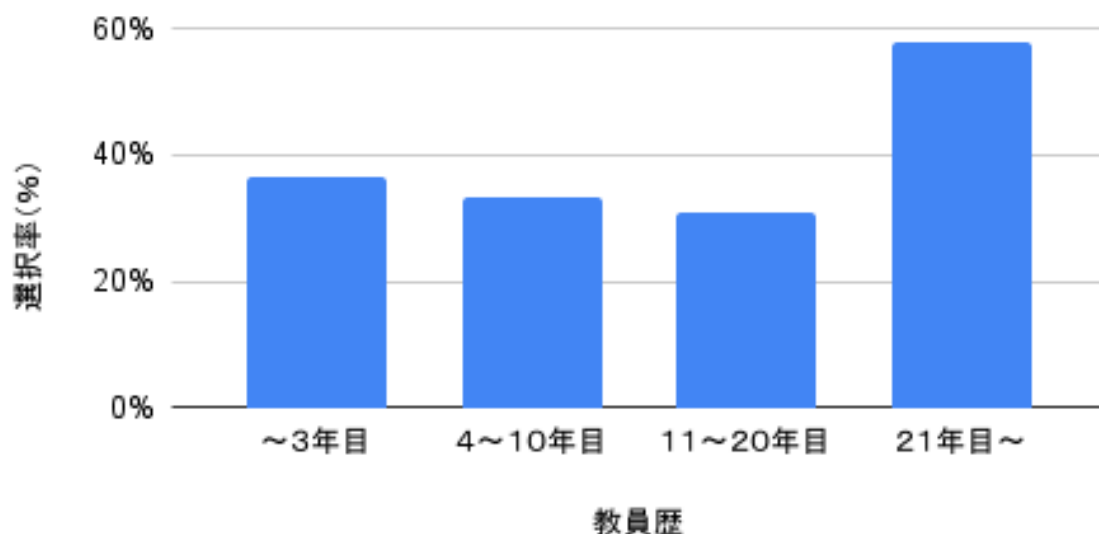
→悩みや本音などの保護者の思いを引き出すことができるほどの関係性の深まりを手応えとして捉えているのでは？

~3年目教員は関係性の構築そのものに不安を抱えることもあり(アンケート項目①参照)、まだ表面的なやり取りに目を向けがち？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目②について

③保護者が、子どもの状況や様子について新たな視点を得られたとき

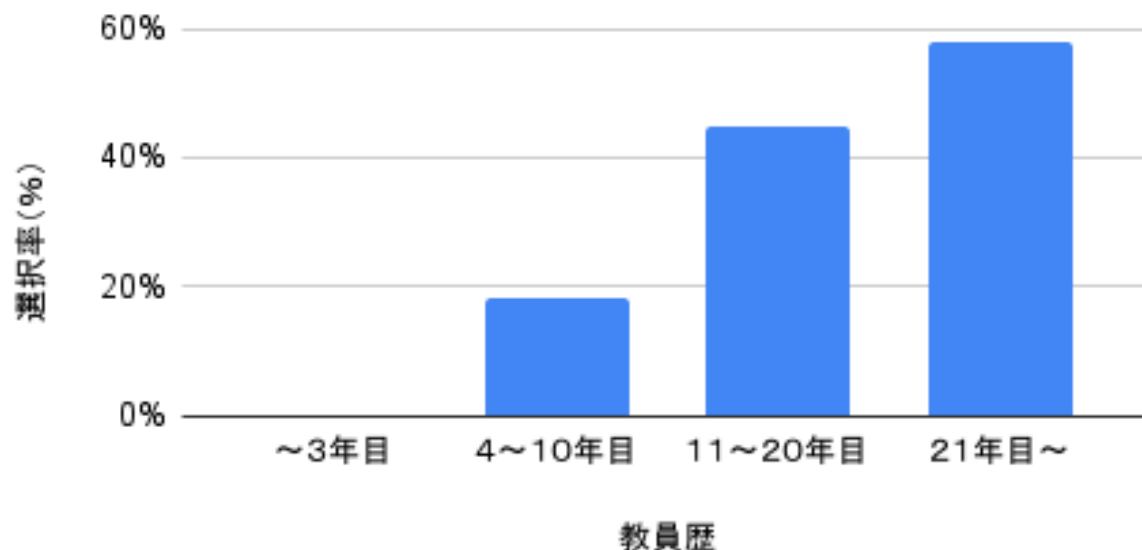


21年目~教員の選択率が最も高い。
→経験を重ねることで、教育相談のプロセスである「相談を通じて保護者側の理解が深まる」という関わりを通した変容に価値を感じるようになるのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目②について

④保護者の漠然とした悩みや不安が、やりとりを通して整理され、明確になってきたとき



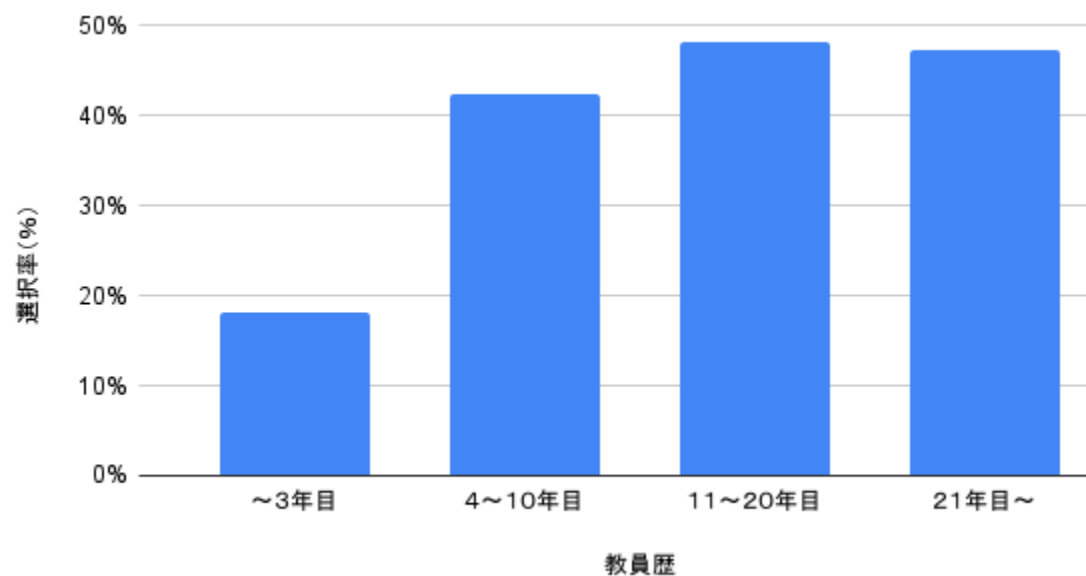
経験年数が長いほど選択率は上昇するが、～3年目教員の選択率は0%。

→～3年目教員は「引き出す」視点の不足によって、「保護者の思いが整理され、明確になっていく」ことを捉えることができていないのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目②について

- ⑤ 学校と保護者が同じ方向に向かっていくための、次の行動に繋がる指針や共通の目標を見つけたとき

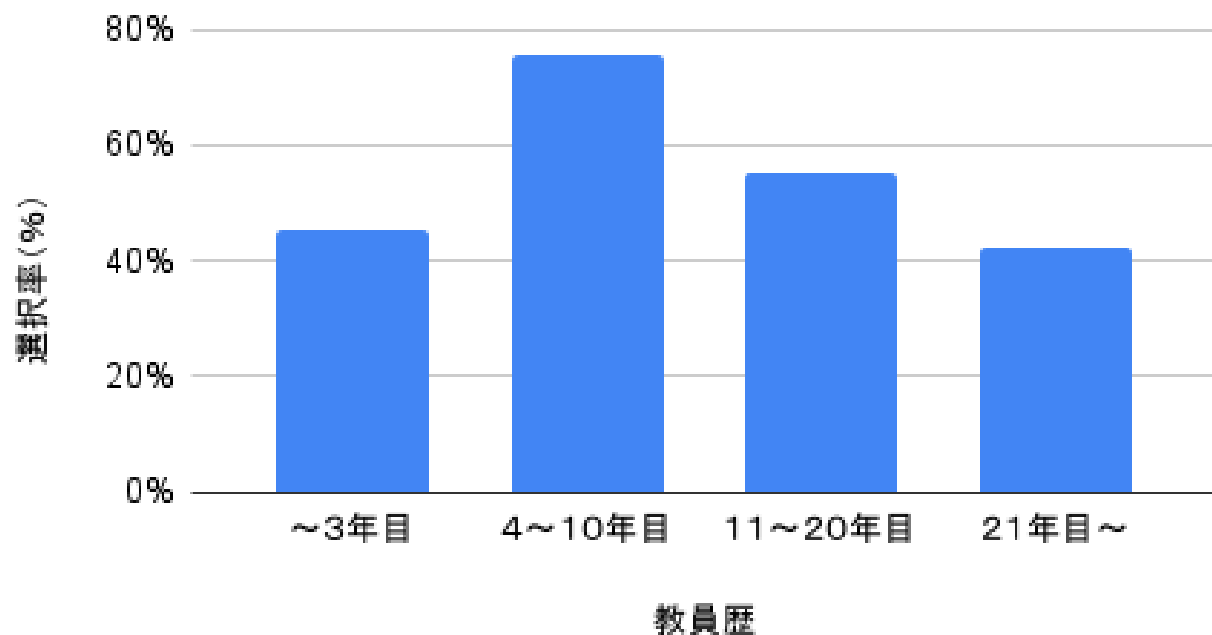


11~20年目教員の選択率が最も高く、
~3年目教員の選択率は2割以下。
→「相談＝話を聴く場」から、「相談＝共に
これからの事を考える場」に認識が
変容していくのでは？
教育相談を「目標を共有するための
プロセスの一つ」として捉えるようになる？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目②について

⑥保護者から「ありがとう」等の感謝の言葉をいただいたとき



4~10年目教員が最も高い選択率。
→ある程度の実践力が付き、自分なりの対応が見えてくる頃。他者からの反応や評価によって「自分の関わりが役に立った」と実感しやすい？
ベテランほど、言葉そのものよりもその後の関係の質や変容によって手ごたえを感じやすいのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目③について

質問項目③

教育相談の場面で心掛けていることを教えてください。

112人が回答

自由記述の回答を「つなげる」～「つながる」までの5段階に分類し、
教員歴ごとの傾向をつかむ



これからの学びの内容や場の設定に活かす

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目③について

分類の方法

①心掛けていること②その理由③判断の理由、補足④5段階分類

例) ①傾聴すること②どのような考えをお持ちなのかしっかりと把握するため

③「保護者の考えを具体的に把握する」という目的④つながる～引き出す

①保護者の表情や声の調子などをよく観察すること

②保護者の本当の思いを聞き取るため

③表層的な言葉に隠れた思い、本音を聞き取る目的④引き出す

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目③について

根拠となる記載は太字

教員歴	(3) ①相談の場面で心掛けていることを教えてください。	(3) ②その理由を教えてください。	理由・補足	5段階	要検討
～3年目	話を遮らない	相談内容の誤った捉え方になったり、保護者の気持ちに添えなくなってしまうため。	信頼関係づくり、安心感の形成につながる要素	つながる	
～3年目	小さなことでも子どもの成長や頑張っていることを伝えることを心掛けています。	保護者は学校での様子が分からないため、小さな出来事も共有することで子どもたちの学校での姿を知ってもらい安心感をもってもらうためです。	信頼関係、話しやすい土台づくり	つながる	
～3年目	傾聴	保護者視点での児童の実態や気になることを聞き取りたいから	「保護者から見た実態や気になることを聞きたい」という具体的な目的	つながる ～引き出す	
～3年目	傾聴、お子さんの様子を伝えること	どのような思いを持たれているのか知ることで指導の方向も見えてくると考えるから。学校での様子を伝えることで、 お子さんにどう成長してほしいかをイメージしやすくするため。	信頼関係づくりと情報収集、方向性の確認	つながる ～引き出す	
～3年目	傾聴することです。	まずはしっかり話を聞くことが、 保護者との信頼関係に繋がる と思うからです。	信頼関係づくりを重視	つながる	

2 研究の方法と結果

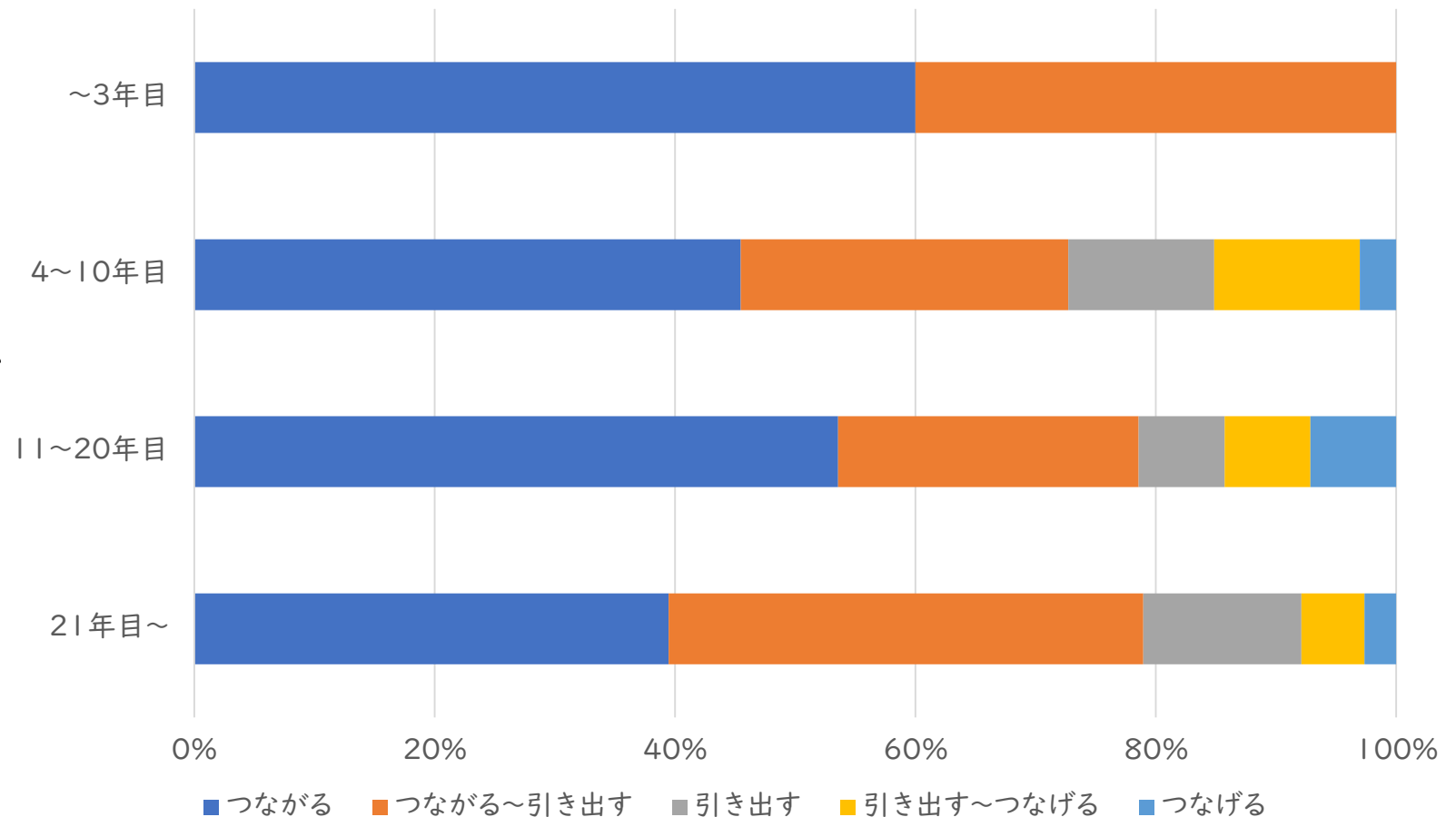
(1) アンケート調査項目③について

・～3年目教員は「つながる」を重視している

・4～10年目教員から経験年数が上の教員歴グループは、「引き出す」以降も意識している。

・21年目～教員は、全教員歴グループの中で最も「引き出す」段階を重要視している。

教育相談の中で意識している段階（教員歴別）

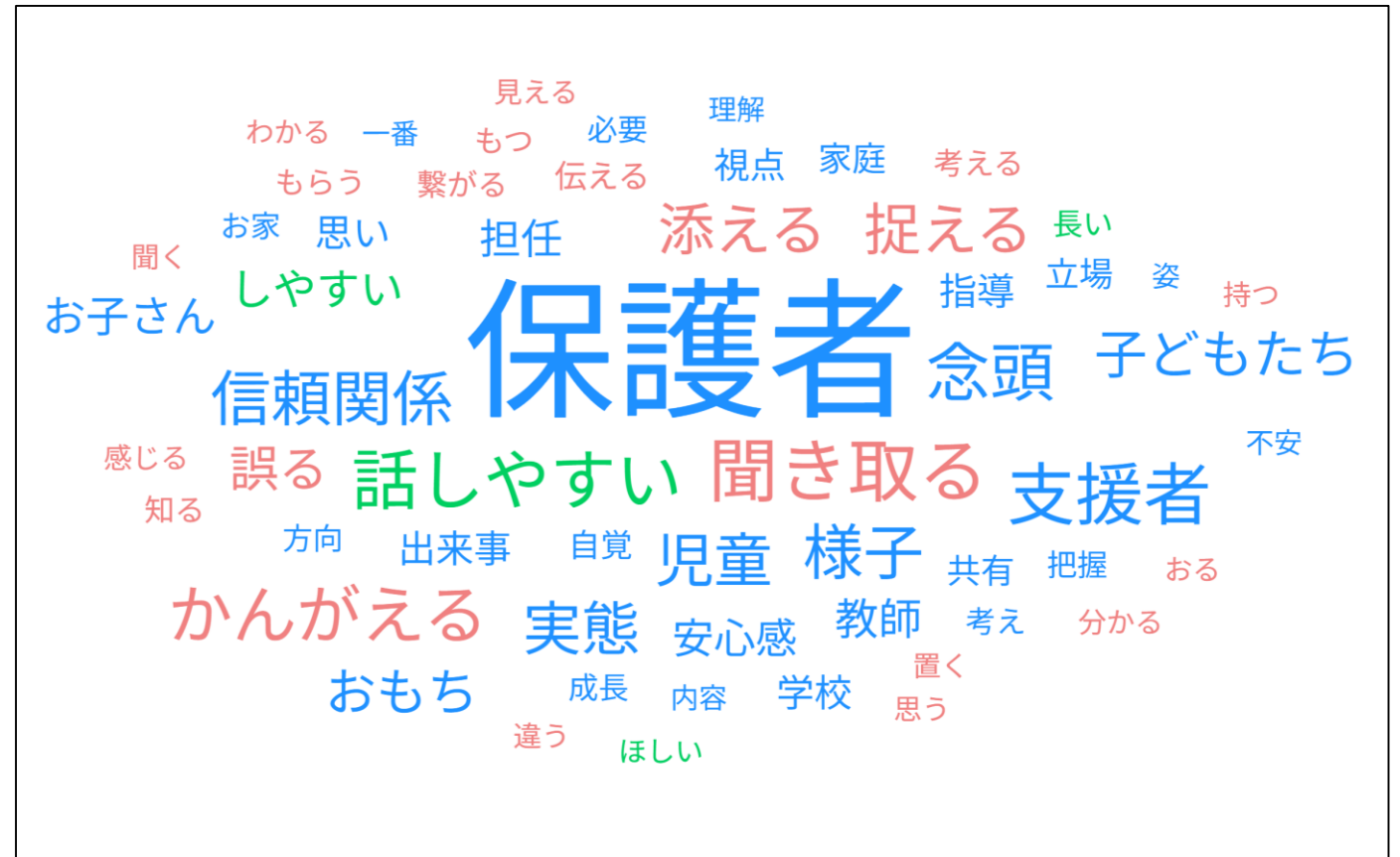


2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目③について

～3年目（始発期）

- ・「聞き取る」「信頼関係」
「話しやすい」
→相手の話をよく「聴く」ことで
信頼関係を築こうとする姿



2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目③について

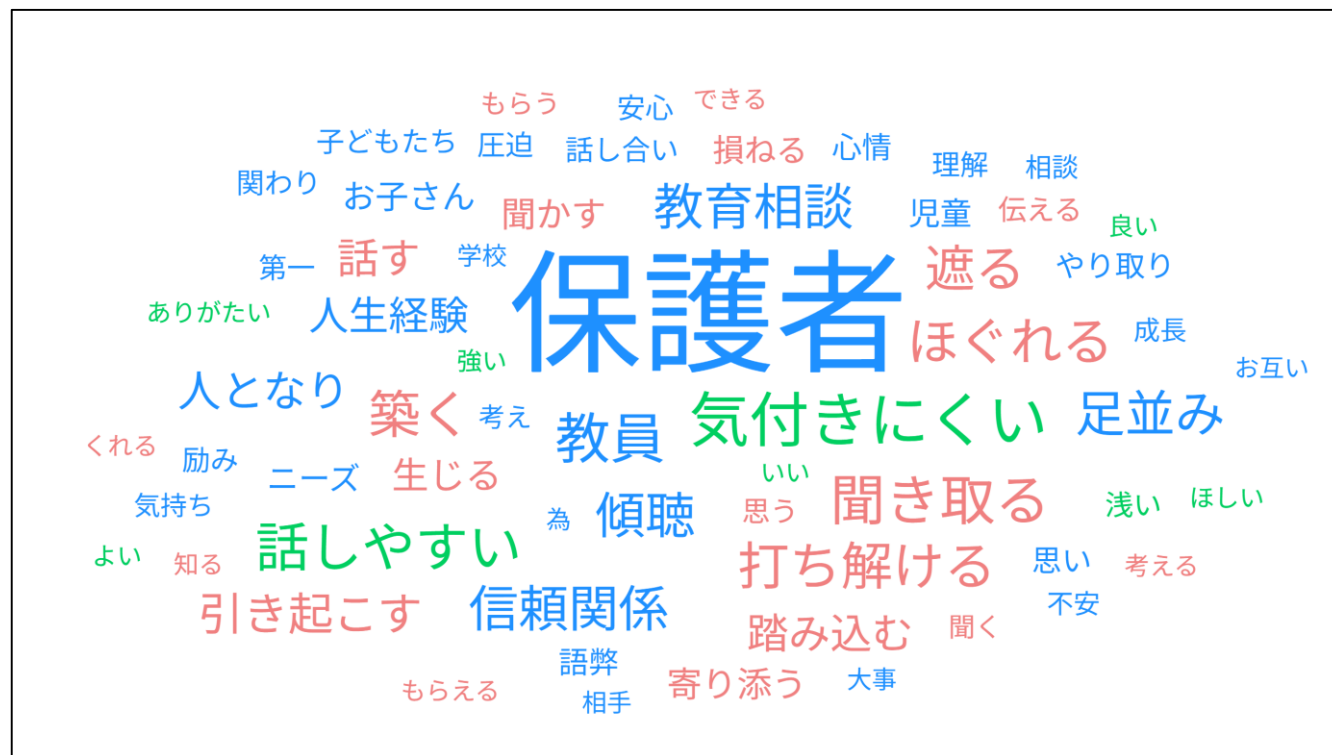
4～10年目（成長期）

- ・～3年目グループで出た単語に加えて

「打ち解ける」「踏み込む」
→「聴く」ことで対話を
深化させようとしている

「ほぐれる」

→相談者の様子に目を向ける



2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目③について

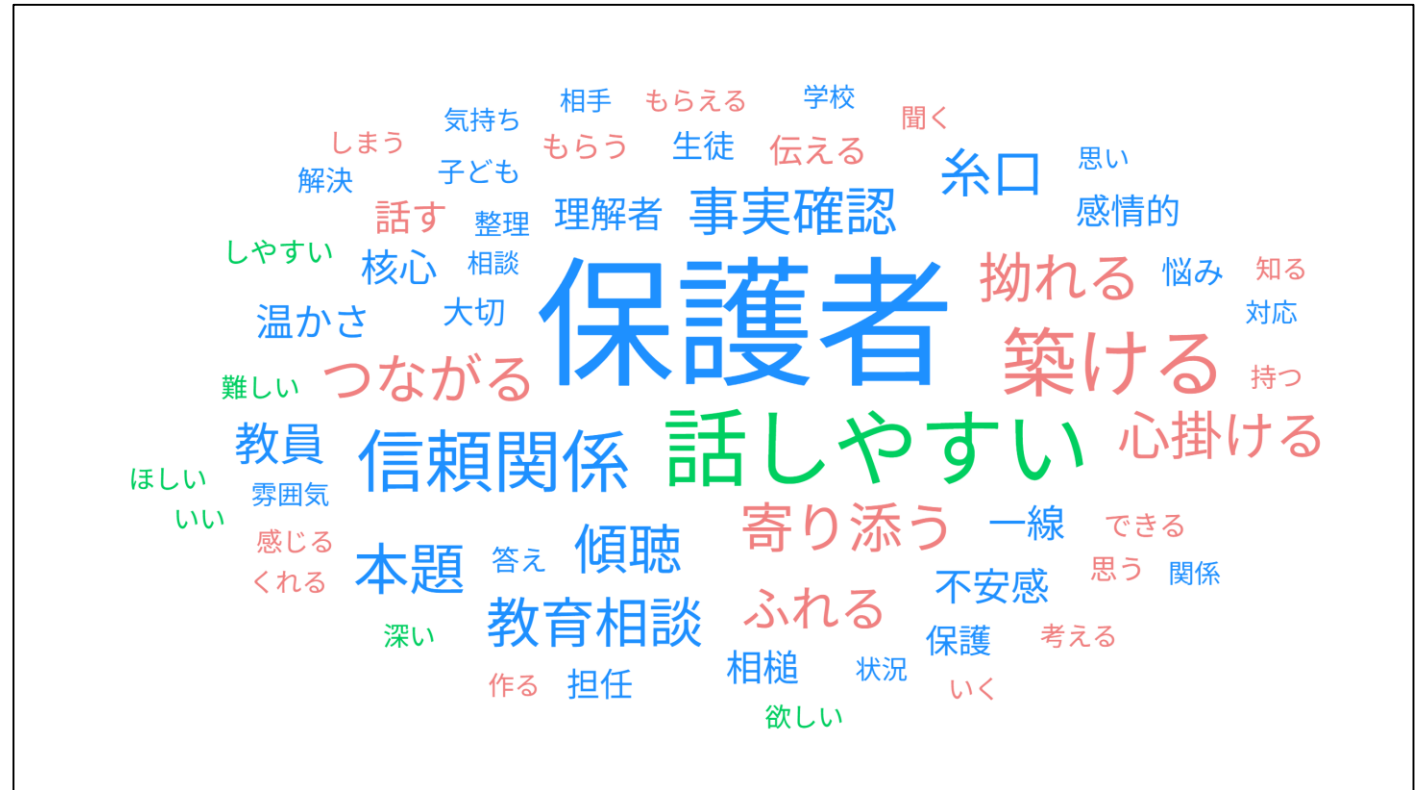
11～20年目（充実期）

・「糸口」「本題」「核心」

→相談者の本当の思いに迫る
アプローチを意識している

・「寄り添う」「傾聴」が出てくる

→経験を重ねたことで
大事にすべきことに名前がつく



2 研究の方法と結果

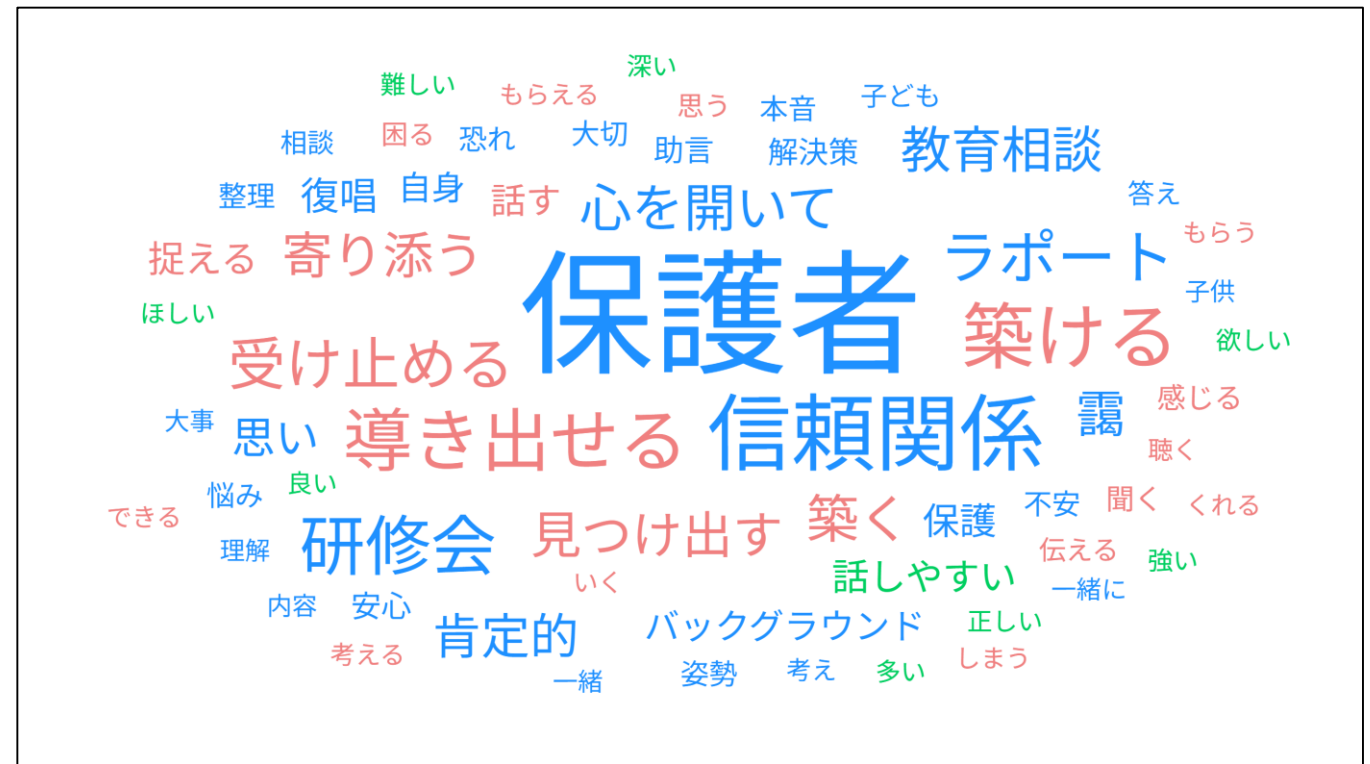
(1) アンケート調査項目③について

21年目～(組織運営期)

- ・「受け止める」「導き出せる」「見つけ出す」

→相談者が自分の力で
答えにたどり着くための関わり

- ・「一緒に」「安心」等
ポジティブな単語



2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

質問項目⑥

教育相談がテーマとなる研修として学びたい内容を選択してください。

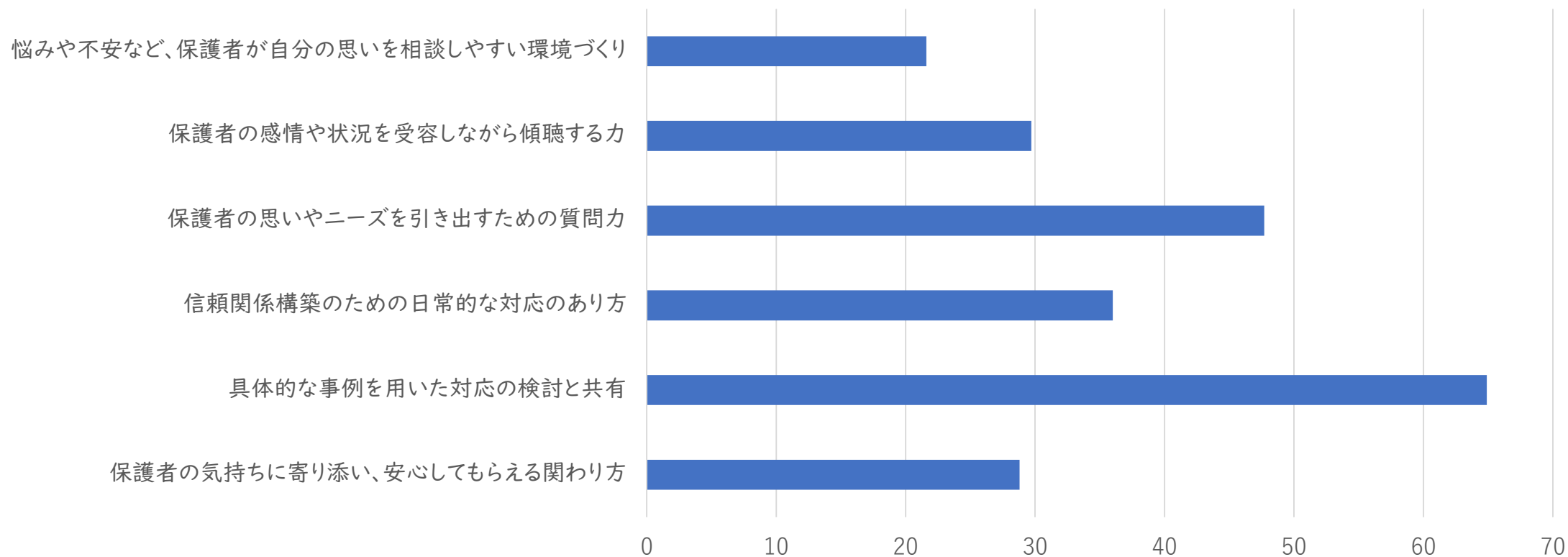
選択肢

- ①悩みや不安など、保護者が自分の思いを相談しやすい環境づくり
- ②保護者の感情や状況を受容しながら傾聴する力
- ③保護者の思いやニーズを引き出すための質問力
- ④信頼関係構築のための日常的な対応のあり方
- ⑤具体的な事例を用いた対応の検討と共有
- ⑥保護者の気持ちに寄り添い、安心してもらえる関わり方

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

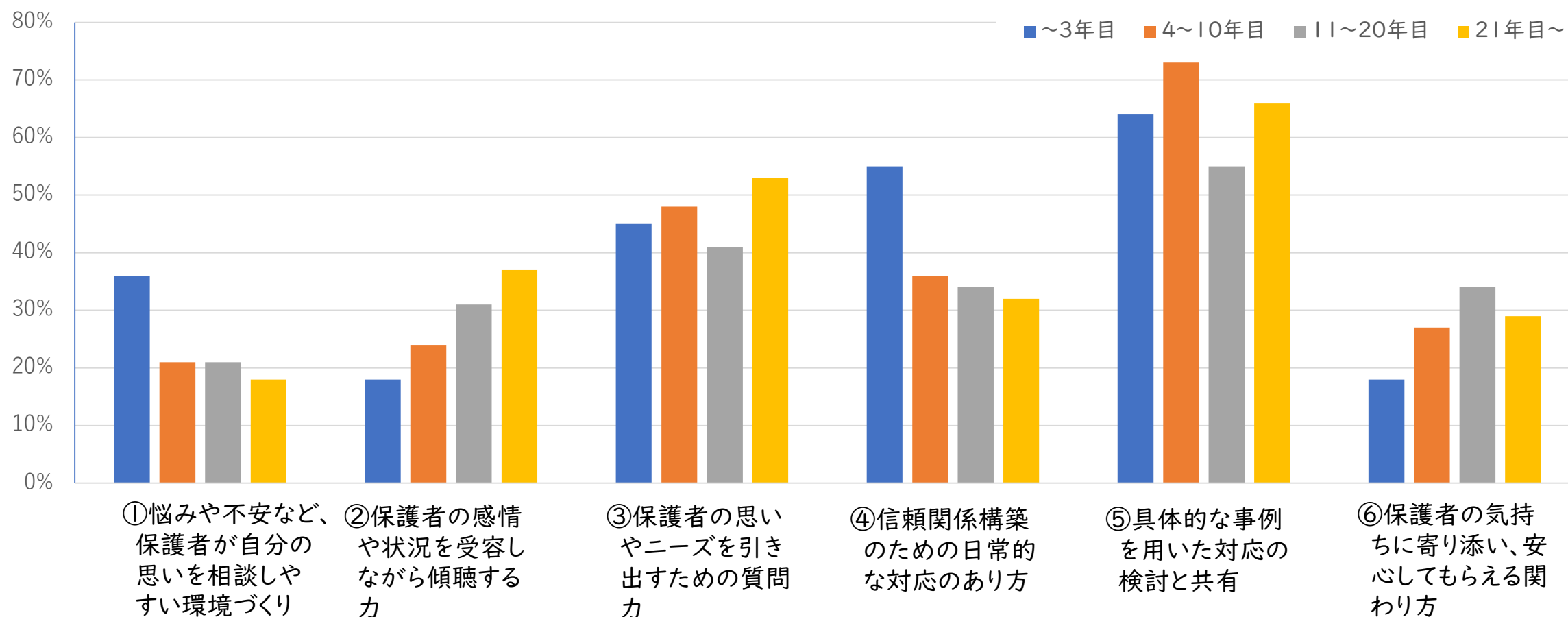
教育相談がテーマとなる研修として学びたい内容



2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

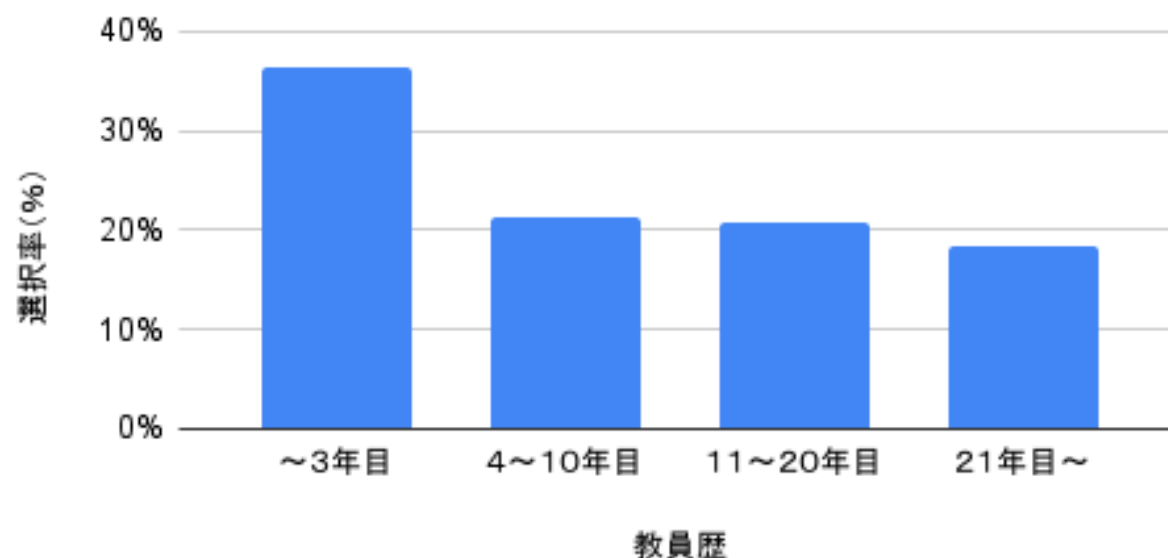
項目⑥教育相談がテーマとなる研修として学びたい内容



2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

①悩みや不安など、保護者が自分の思いを相談しやすい環境づくり



~3年目教員が最も高い選択率を示す。

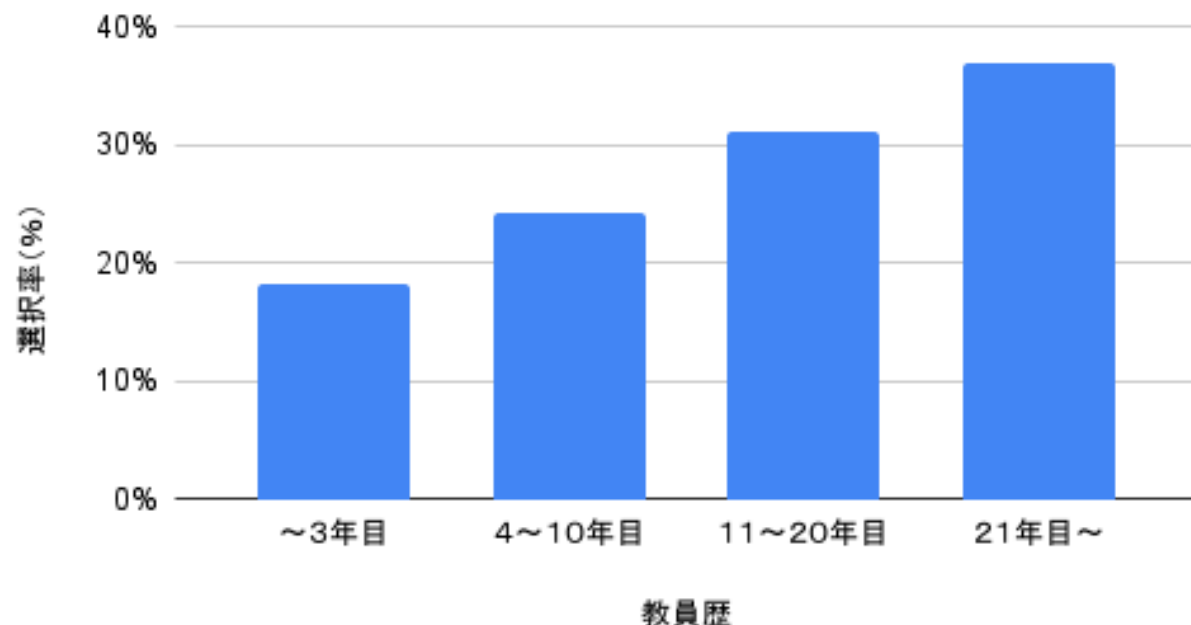
→経験が浅く、「まずは安心して話せるような場を整えたい」という思いがあるため、適切に相談を進められる場づくりに関心が高いのでは？

経験を重ねるほど、環境づくりについてはある程度実践の中で自分なりのやり方を確立しているのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

②保護者の感情や状況を受容しながら傾聴する力



経験年数が長いほど選択率が上昇。

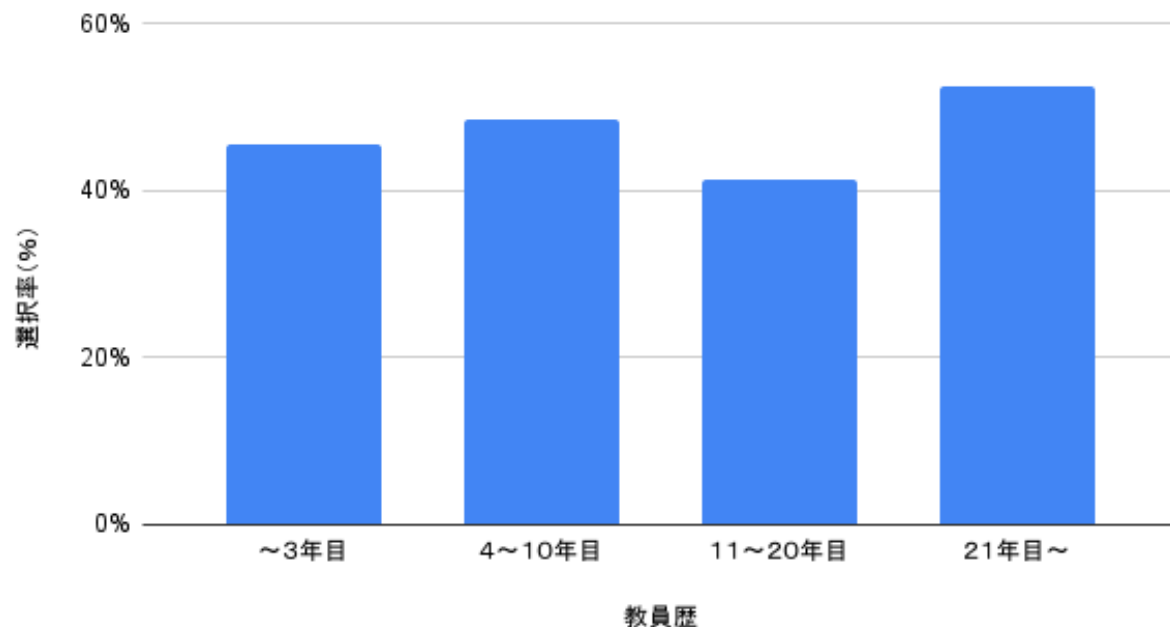
→経験を積むことで「傾聴」の捉え方や見え方が変化し、それに伴って課題感も深化していくのでは？

同じ「傾聴」でも、~3年目教員に見えているものと21年目~教員に見えているものは異なっているのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

③保護者の思いやニーズを引き出すための質問力

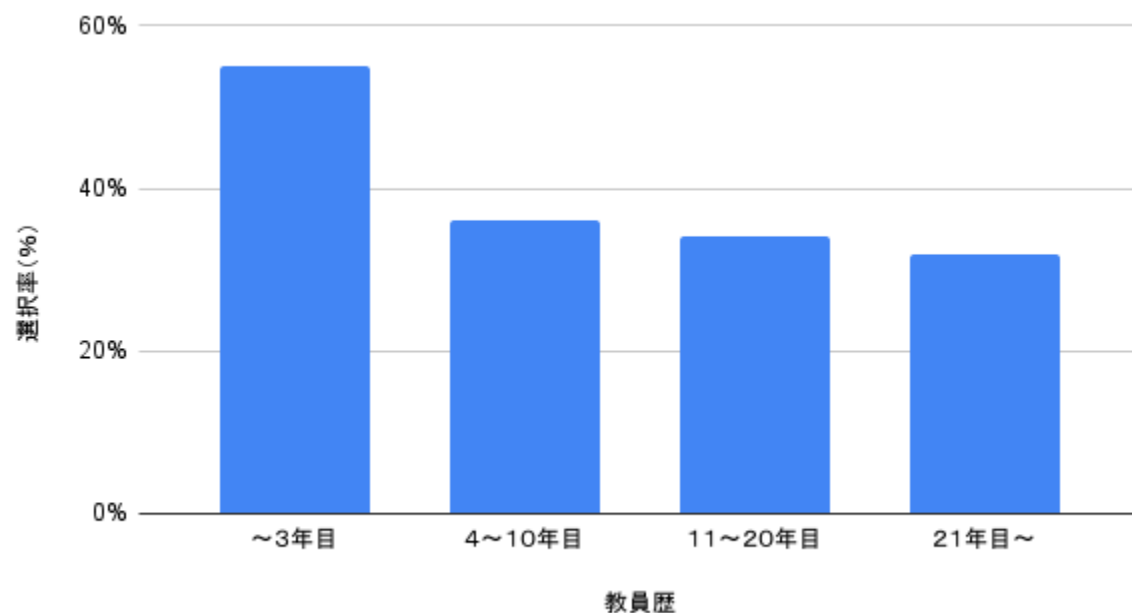


21年目~教員の選択率が最も高い。
→ 豊富な相談経験をもつ教員ほど、表面的な話だけではなく、保護者の本音や背景を質問によつて的確に引き出していくことが重要であると認識しているのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

④信頼関係構築のための日常的な対応のあり方



~3年目教員の選択率が最も高い。

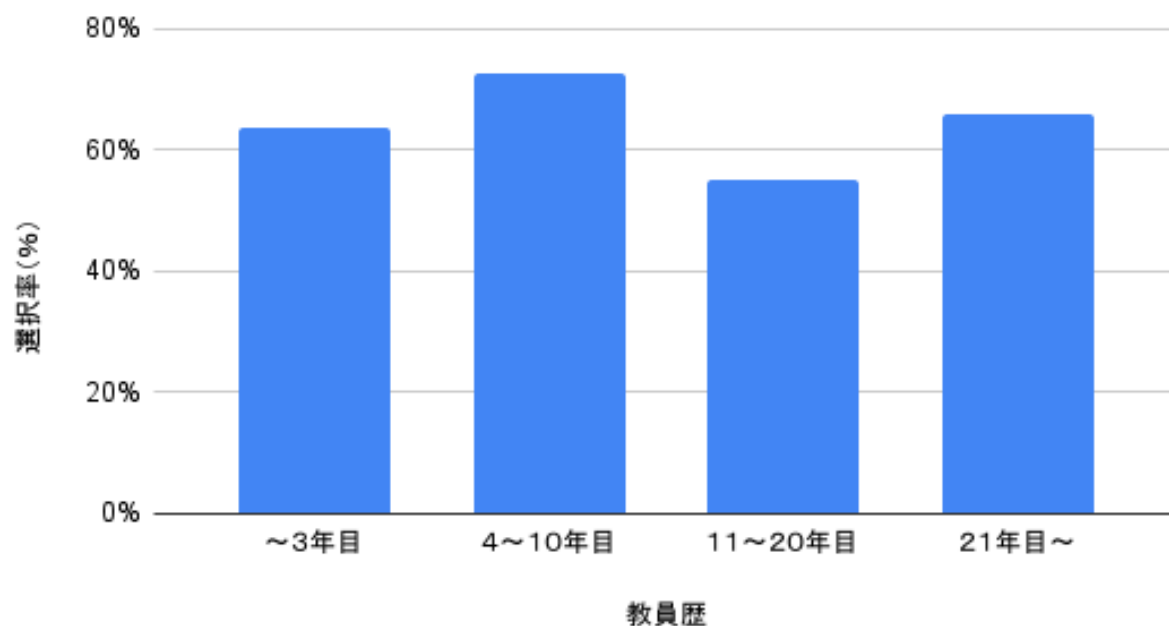
→日々保護者との関わる中で信頼関係を構築することに難しさや困りを感じているのでは？

経験年数が長くなり、経験を重ねることで、自分なりの保護者との関係の築き方を見つけていくのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

⑤具体的な事例を用いた対応の検討と共有

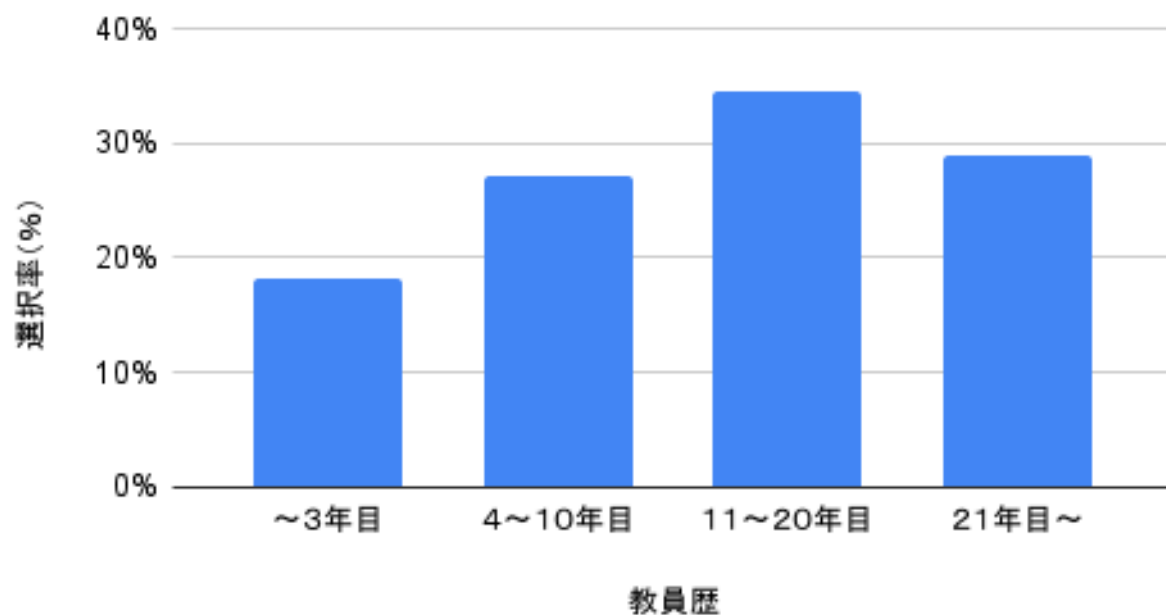


どの教員歴グループにおいても、他の選択肢と比べて最も高い選択率を示す。4~10年目教員の選択率が高い。
→多くの教員が、具体的な事例を通して学びたいと感じている。その中で若手教員は日常で直面する具体的な場面を参考にしながら対応力を高めたいと感じているのでは？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

⑥保護者の気持ちに寄り添い、安心してもらえる関わり方



11~20年目教員で最も高い選択率。
4~10年目教員と21年目~教員は近い
水準を示している。

→中堅~ベテラン層での関心が強い。経
験を重ねる中で、相談対応が単なる
情報共有に留まらず、感情面の支えや
信頼感の醸成にもなり得ることを実感
している？

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査項目⑥について

教育相談に関する課題感や意識、学びを求める内容には
教員歴によって異なる傾向が見られた



「教員歴や経験による差」は
「もっている視点、物事の捉え方、見取り方、アセスメントの捉え方の差」と
言える

教員歴や経験による差をプラスに捉え、
それぞれが感じている課題や持っている視点について共有する

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究

◎教育相談を自分事として捉え、学校の中で温度差が出ないように

◎誰と話しても「相談して良かった」と思ってもらえるように



- ・相談者の思いを受け止める…保護者の思い「聴いてくれて嬉しいな」
- ・相談者の思いを引き出す…保護者の思い「次はこれに取り組んでみようかな」
「私は本当はこう思っていたんだな」

教育相談に関する基礎知識や心構えなどを学ぶとともに、
お互いの経験からの学びを共有することをねらい
2回の研修会を計画し、実施する

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究

「知識技能の習得だけではなく、教師としてふさわしい資質能力を広く身に付けていくためには、…(中略)…**他者との対話や振り返り等の機会を教師の学びにおいて確保する**など、協働的な教師の学びも重視される必要がある。こうした機会としては、例えば各学校において行われる校内研修や授業研究など、**「現場の経験」を含む学びが、同僚との学び合いなどを含む場として重要**であると考えられる。」

文部科学省 中央教育審議会

「「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて」より



「ともに学び合う場」が必要
同僚との対話から得られる学びがある

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究

★学校での取り組み「さがえっこはぐくみサロン」

- ・希望する保護者に対して、個別面談や日々の送迎時では伝えきれない想いや悩みについて教員と話をする場

学校としてのねらい

声を掛けやすい雰囲気作りと保護者の話を引き出す会話のポイントを日頃から気に留めておくことを職員間で意識する。

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究

校内研修会実施後アンケート

1. 研修会の実施について

①研修会の実施時間はいかがでしたか。
適切だった ・ 適切でない()

②研修会の時間設定はいかがでしたか。
適切だった ・ 長かった ・ 短かった

2. 研修会の内容について

①今日の研修内容は、先生方にとって理解しやすいものでしたか。
理解しやすかった ・ 理解しにくかった ・ どちらとも言えない()

②今日の研修会の内容は、今後の児童生徒、保護者との関わりに活かせると感じましたか。
活かせると感じた ・ 活かせると感じなかった ・ どちらとも言えない()

③今日の研修会の「感想やご意見、ご質問など、なんでもご自由にご記入ください。」
()

3. 今後の研修会について

①第2回校内研修会(7/8)では、第1回研修会での学びを実践に活かせるようにするために、実際の相談内容に即したロールプレイングを行う予定です。知りたいことや気になることがあればご記入ください。
()

②はぐくみサロンの実施に際して、心配なことや不安なこと、気になることなどはありますか。
なんでもご自由にご記入ください。
()

第1回、第2回の研修会後に
アンケートを実施



次回の研修会やサロン、
これからの実践に活かすヒントや
課題を見つけるため

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究

第1回研修会

ねらい：**教育相談を自分事として捉え**、研修会の中で互いの良さを学び合い、集団全体の教育相談力の向上を目指す。また、7月に行われるサロンに向けて基礎的事項を確認し、よりよい対話に繋げる。

- 講義中心の形式
- カウンセリング的手法を取り入れた教育相談の基礎知識を共有

- 演習を取り入れ、内容や結果を全員で共有する時間を設定
=学び合い

目指す姿：**・保護者の思いを引き出す問い掛け方について知る**ことができる。
・保護者との信頼関係構築のために日頃から実践できるヒントを見つけることができる。

- これまでの取り組みをカウンセリング的視点から再評価し、価値付けし合う場 =学び合い

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①

はじめに／今日の予定

はじめに

- ・教育相談とは？
- ・こんなことで悩んだ経験ありませんか？

○思いを受け止め、引き出すために

- ・「聞く」から「聴く」へ
積極的傾聴（アクティブ・リスニング）を目指して
- ・思いを引き出す質問力

○相談しやすい関係づくりのために

- ・コンプリメント

教育相談の定義について全員で確認



教育相談を自分事として捉えられるように

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①

はじめに／今日の予定

はじめに

- ・教育相談とは？
- ・こんなことで悩んだ経験ありませんか？

○思いを受け止め、引き出すために

- ・「聞く」から「聴く」へ
積極的傾聴（アクティブ・リスニング）を目指して
- ・思いを引き出す質問力

○相談しやすい関係づくりのために

- ・コンプリメント

演習を取り入れ、その結果や内容を共有しながら
共に学びを進めていく

これまでの取り組みを振り返り、
カウンセリング的視点から再評価する



他の教員の取り組みを知り、
良さや学びを吸収し合う場づくり

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①

思いが伝わる関わりを目指して ～「つながる」ためのヒント探し～

☆日頃から、先生方が保護者の方や他校の先生方との面談で意識していることや大事にしていることはなんですか？
また、「〇〇先生のこんなところ、素敵だな。まねしたいな。」と感じたことはありませんか。付箋にどんどん書いて、共有してみましょう。
明日から使えるヒントが見つかるかもしれません。

非言語コミュニケーション	解決志向アプローチ			コンプリメント
	リソース探し	例外	成功の責任追及	

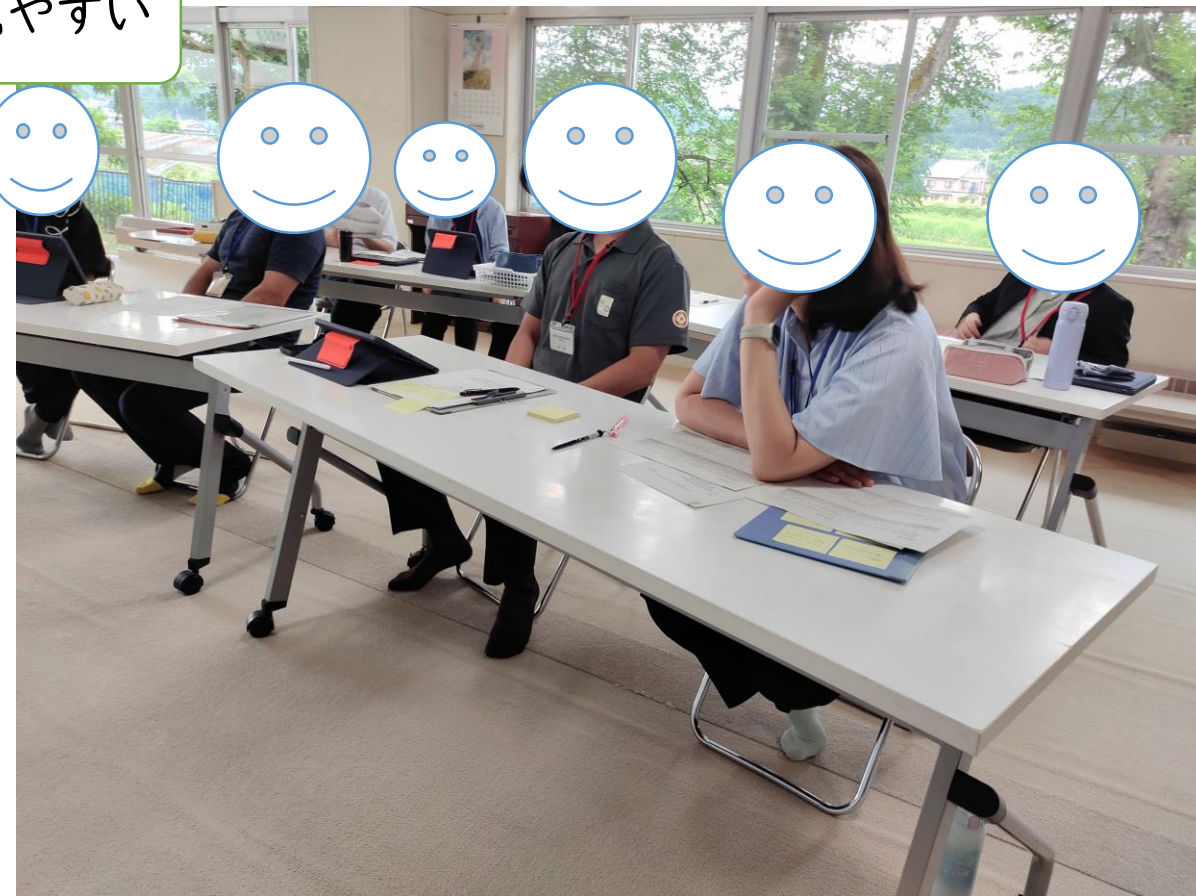
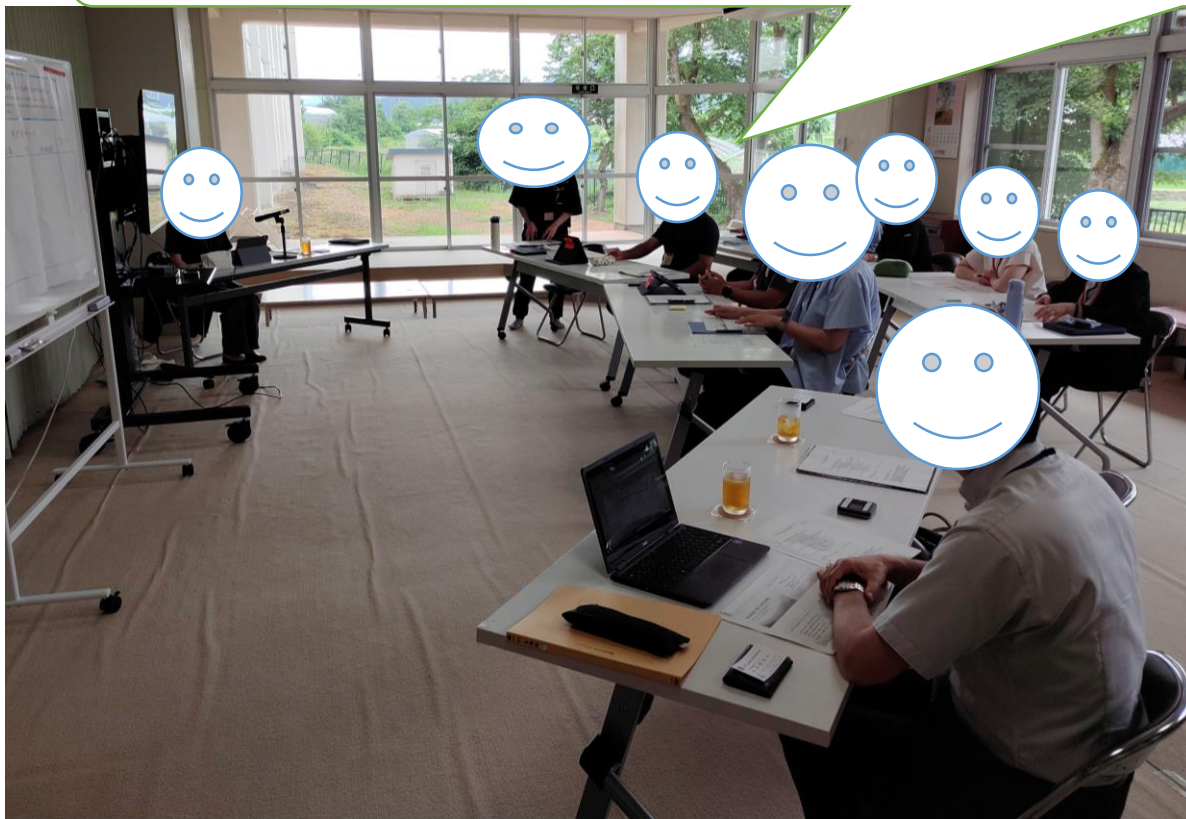
自分が普段取り組んでいる
ことを付箋に記入し、
あてはまる部分に貼っていく
↓
全員の良さや課題を可視化

できていること、改善できることを可視化

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①

気軽に話しやすいような席配置。お互いの様子が見やすい



2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①

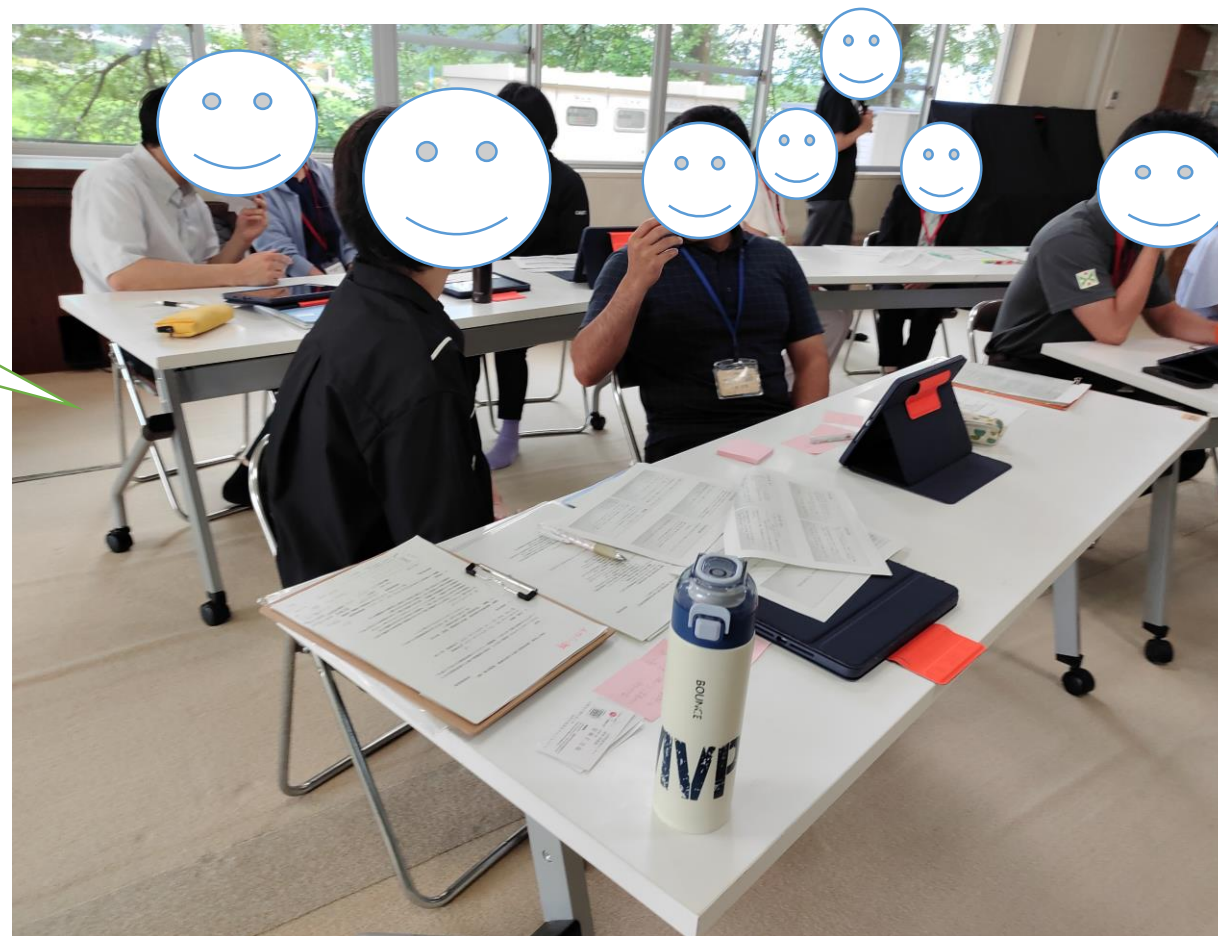
相手のどんな様子から感情を判断したか、
演じる側は、感情を表すために
どこを意識したかについて
ペアや全体で意見を共有。
思ったように伝わらず、難しさを感じたペアも。

◎演習 「はあ」って言うゲーム

「はあ」という声や表情、姿勢などで、感情を表現できるでしょうか？
また、どんなところを見て感情を推測しましたか？
隣同士で実践してみましょう。

☆隣同士でペアになり、誕生月の早い方は下記の①～③の中から一つ選んで実演してみましょう。 見ている方は、①～③のうちどれなのか推測して、答えを伝えてみましょう。1人1回ずつ実演できたら終了です。

- ①困ったときの「はあ」
- ②照れくさいときの「はあ」
- ③失恋したときの「はあ」



2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①



解決志向アプローチの中の「リソース探し」
昨年度からの学校研究とも共通する内容で、
見える実態だけではなくその背景に目を向けながら、
グループでリソースを探そうとする姿が見られた。
「それもあるね。」「そういうとらえ方もあるのか。」

●演習

◇4年生女子Aさんの具体的な事例

明瞭な発語がなく、身振りや指さして自分の思いや要求を伝える。教師の指示をよく聞いていて、活動の移り変わりにスムーズに対応する。友達との関わりが好きで、特に同性の友達や下級生には自分から優しく関わろうとするが、距離感が適切でないことがある。走ることや本を読むことが好きだが、途中で周りの友達が活動する様子を眺めていることが多い。一点を注視していることが難しく、周囲の様子を気にするため活動に集中できない。協力的な家庭で、持ち物や連絡などは滞らない。母親は、「言うことを聞かず、手を焼いている」とつぶやいていた。

☆Aさんがもっているリソースは何でしょうか。

「もっているもの」→「できること」「得意なこと」「好きなこと」…

この保護者や子どもには、解決を作るためのリソースが必ずある！と信じる

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①



「コンプリメント」では、自分の取り組みがどの項目にあてはまるのか悩む姿も見られた

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①

「つながる」の段階から「引き出す」につなげるまで、
自分が大事にしていることを全体で共有。

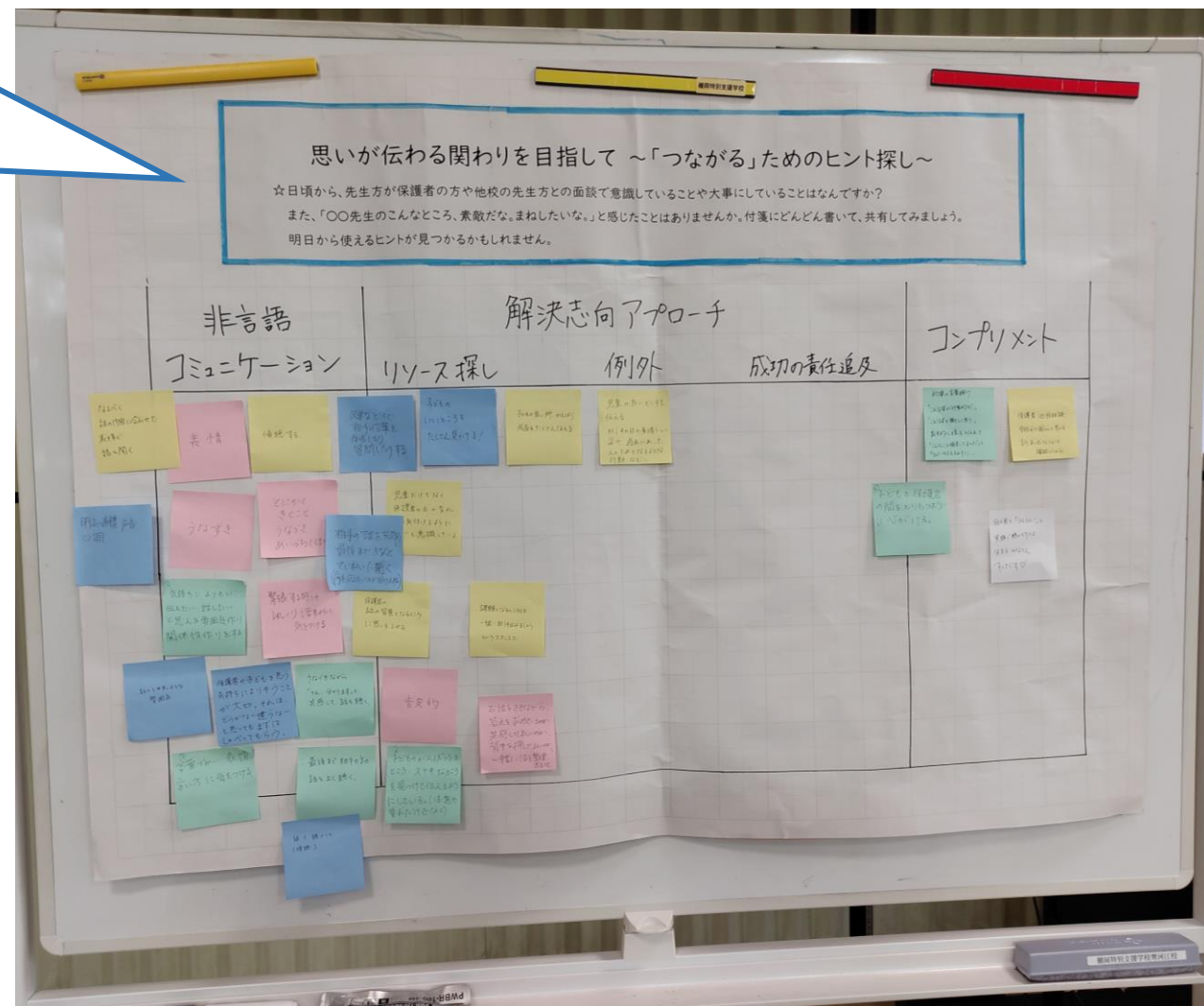
「ああ、これ私もやってる」

「これいいですね。できるようになりたいな。」と
自然と自他の価値付けを行っていた。

いいところを伝えるとき、気を付けていることは？

児童のいいところや保護者の努力など、「伝えたいな」と感じることは日々たくさんあるかと思います。

直接の対話、電話や連絡帳など様々な手段がある中で、どのようなことに気を付けながら伝えていますか？



2 研究の方法と結果

(2) 実践研究①

研修会①後アンケートより(◎よかった点 ★課題、改善点)

◎教育相談は自分には関係ないと思っていたが、誰しもの関わるものなんだと実感した。

◎背景を丁寧に探るという、学校研究と共通する考え方があった。

→教育相談に関する意識の変容◎「他人事」から「自分事」に
自分たちが取り組んできたことの価値付け◎

★実際に相談にあたるペアで演習できると、イメージが持ちやすくなると思う。

★実際に相談をどのように進めるか知りたい。

☆保護者との対話の流れや相手の考え方などに気を配れるか心配。初めて
取り組むので不安。

→・第1回の基礎知識の確認に加えて、相談の進め方について触れる
・より実際の場面に近付けた演習を取り入れ、不安感の軽減を図る

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

第2回研修会

ねらい: サロンに向けて、担当する教員がより安心して気持ちで相談に取り組み、保護者が「話してよかった」と思えるような相談を目指して知識の習得と演習を行う。

目指す姿: ・保護者の思いを受け止め、引き出しながら話をするための相談の進め方について知ることができる。
・ロールプレイを通して、「こんなときどうする？」を考えることができる。

- 第1回研修会での学びを確認
- 教育相談のとらえ方や基本的な進め方を共通理解

- 実践に生かしやすいように、実際に相談を行うペアと内容で演習
- ロールプレイ後はそれぞれの役割からフィードバックを受ける時間

=学び合い

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

ロールプレイングとは

「現実に近い状況を設定し、参加者に特定の役割を演じさせることによって物事への視点の客観性を高め、自分では気づかなかった日常生活での課題や問題の解決、あるいは自己を再発見する」ことを目的としている。役割や立場を理解させたり、現実に向き合う主体性や創造性を高めるために行われる技法ともいえる。

日本学校教育相談学会
『25 ロールプレイングの理論と実際』より



実際に保護者の立場を体験したり、観察者からのフィードバックを受けたりすることで
自らの関わり方を客観的に受け止めることができる

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

今日の予定

はじめに

○今日の研修が終わったら…？

・スケーリングクエスチョン

○はじめよう、教育相談

・目標づくりの3条件

・キーワードは「つながる」「引き出す」「つなげる」

○ロールプレイング演習

要望があった内容について触れる
1回目の研修会で取り上げた基礎
知識について改めて確認

教育相談の基本的な進め方や捉え方、
心構えなどについて共通理解を図る

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

今日の予定

- はじめに
- 今日の研修が終わったら…？
 - ・スケーリングクエスチョン
 - はじめよう、教育相談
 - ・目標づくりの3条件
 - ・キーワードは「つながる」「引き出す」「つなげる」
 - ロールプレイング演習

学校の取り組み(さがえっこはぐくみサロン)の場面を想定し、実際に相談を行うペアと事前に保護者より聞き取った相談内容でロールプレイ演習を実施



実際に教員と保護者が向き合う場面を想定し、不安感を軽減しながら実践に活かせるようにする

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

保護者相談ワークシート

事例概要

★保護者の方から教えていただいた相談の内容を簡潔に記入します。

例) 小学部6年女子 A さんの保護者。中学部では、どんな学習をするのか、また、中学部卒業から社会に出るまで、どんな進路の選択肢があるのか。

★「つながる」では、非言語コミュニケーションを用いながら保護者との信頼関係を少しずつ構築し、相談のための土台を形成します。事前に伺った相談内容を受けて、保護者の思いや子どもの行動について考えることが、保護者変容を共有したりコンプリメントしたりするときに役立ちます。「引き出す」では具体的な問い掛けを行うので、その前後として実態やその背景に目を向け、必要な情報を準備しておきます。

例) ・中学部、またその先の進路について情報が欲しいのかな？
→中学部の教育過程や作業学習、進路先、就労、卒業後のサポートについて情報を準備
・Bさんが中学部でうまくやっていけるのか心配なのかな？
→心配なのは学習面？集団参加？日常生活面？Bさんのどんな状態からそう感じるのか？
・将来への漠然とした不安があるのかな？
→一番近い不安はどこにある？今気になる行動が大きくなるかも、の不安？卒業後？親亡き後？
・周囲に同じような子をもつ親がおらず、手探り状態のつらさがあるのかな？→家庭内外の協力者はいるか？

★「引き出す」では、「つながる」で推測した子どもの行動や保護者の思いの背景を基に具体的な問い掛けを行います。効果的な問い掛けによって、保護者の本当の思いに近付いたり、子どもの可能性を見つけたりすることができます。

例) ・Bさん、あっという間に6年生ですね。次は6年生かー。中学部に行くの、楽しみにしていますか？卒業が寂しい気持ちかな？お母さんはいかがですか？→どこに不安があるか探る→リソース、例外探しを行う。
・Bさんはどんな中学生になるんでしょうかね。〇〇が得意だから、△△をがんばれそうですね。
お母さんは、Bさんにどんな中学生になってほしいですか？→未来の解決の姿、これから取り組めること。

★「つなげる」では、「引き出す」で出てきた保護者の思いや子どものリソース、例外を基に方針や目標を共有したり、これからの支援体制について確認したりします。また、他の教員や外部機関とのつながりを望む保護者がいれば、その場で結論を出さずまた次回お伝えするようにします。

・保護者サロンや親の会などの紹介？(保護者の必要性が第一、無理に勧めない。)

・Aさんの健康面や日生活などについて全教員と共有、養護教諭とつなげる？

メモ

★保護者との相談の中で出てきた情報や、保護者の表情、言葉や声の調子などの気になったことや、話を受けて感じたことなど、なんでも記録する欄としてお使いください。

ロールプレイング演習に取り組む前に、
「保護者相談ワークシート」に記入

「つながる」「引き出す」「つなげる」の段階で
それぞれ必要になりそうな情報や、
求めている情報を引き出すための働き掛け方など
あらかじめ書き出しておく



相談の枠組みを事前に考えてみる

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

ロールプレイ・振り返りシート

教師役:
教師役:
保護者役:
観察者役:

相談キーワード	教師役の様子、態度、会話や質問など 観察者から見て印象に残ったこと
保護者とつながる	
保護者の思いを引き出し、整理する	
次につなげる、誰かにつなげる	

○: 非言語コミュニケーション ◎: 解決志向アプローチ

自由記述・感想欄

観察者役は、ロールプレイング中の
教員役、保護者役のやりとりで
印象に残ったことやよかったことを
このシートに記録していく



最後にフィードバックを行う
客観的な立場だからこそ見えることがある

★ロールプレイ演習

- : 非言語コミュニケーション
- ◎: 解決志向アプローチ
(例外、リソース…)

印をつけて、価値付けしていきましょう！

例: ○「○○したんですね。」と保護者の言葉を繰り返していた。
○保護者が話し終わるまで、ゆっくり頷きながら聴いていた。
◎「○○できているのはどんな時ですか。」と質問していた。

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

ロールプレイ演習に時間を割けるように、
事前に資料を配布して確認を行ってもらった



キーワードは「つながる」「引き出す」「つなげる」

①保護者をつながる：子供のより良い姿の実現に向けて、
学校と保護者が一丸となる段階

★非言語コミュニケーション、コンプリメント

②保護者の思いを引き出し、整理する

：いろいろな観点から子どもについて語り合う

★解決志向アプローチ

③次につなげる、誰かにつなげる

：学校全体で、必要ならば他機関も巻き込んで
「チーム学校」の姿勢で！

教育相談の基本的な進め方は全体で確認

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

事前に設定したグループごとに各教室に分かれ、
保護者役と教員役、観察者役を
それぞれ担当して演習を行った



2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

★非言語コミュニケーション

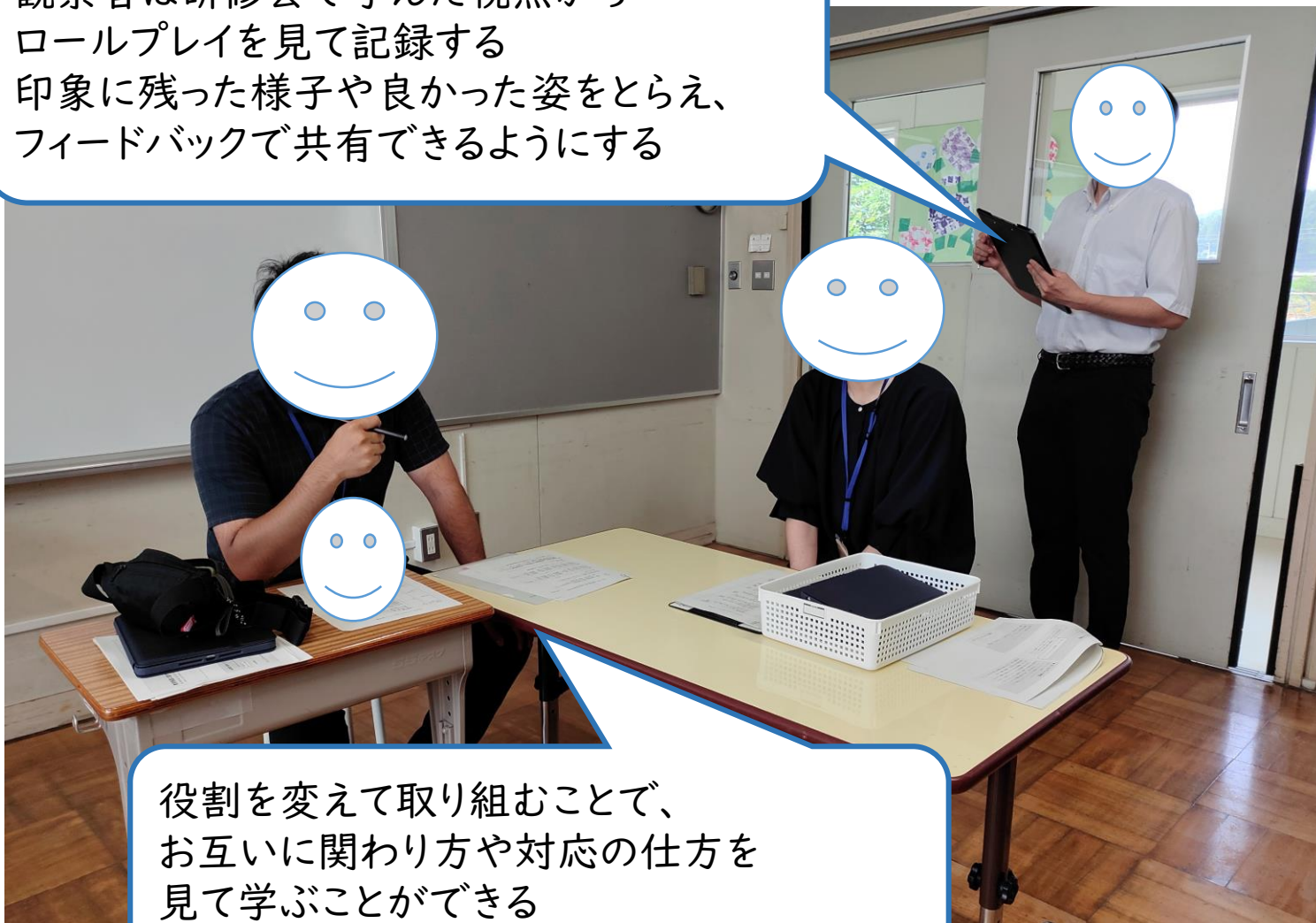
★解決志向アプローチ

★「つながる」「引き出す」「つなげる」の視点

意識しながらできましたか？

振り返りの視点

観察者は研修会で学んだ視点から
ロールプレイを見て記録する
印象に残った様子や良かった姿をとらえ、
フィードバックで共有できるようにする



役割を変えて取り組むことで、
お互いに関わり方や対応の仕方を見
て学ぶことができる

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

研修会②後アンケートの内容(◎よかった点 ★課題、改善点)

◎教育相談に今まで携わってこなかったため、分かりやすい内容でよかった。**ロールプレイをすることで、イメージを掴みやすかった。**

◎教育相談について固く捉えすぎていたことに気付けた。

★まだ**完全に理解しているとは言えない**ので、資料を見返して自分のものにしていききたいと思う。

★サロンの目的と研修の内容にずれがあり、**実践に活かしにくかった。**

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

全2回の研修会を終えた感想、見つけたヒント

- ◎教育相談は**その場で解決することがすべてではない**ということを学んだ。
- ◎保護者が教員のどんなところを見て話を聴いたり、気持ちを動かしたり
するのかを学べた。
- ◎**勇気を出して相談してくれた保護者への労い**を伝えたい。

2 研究の方法と結果

(2) 実践研究②

はぐくみサロン実施後の教員の感想（一部抜粋）

- ◎応えることができたかは正直分らないが、このような時間を保護者と共有できたことはよかったと思う。
- ◎的確に答えることができなかったが、引き出すことはできたかもしれない。
- ◎相談者本人が解決の糸口をつかめるように心がけられた。

→意識の変容が見られた。

1回目研修会後よりも具体的に、自分の良さや頑張りが見えるようになった

「思いを受け止める」「思いを引き出す」を意識した関わり◎

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

2 研究の方法

(3) 聞き取り調査

校内研修の焦点：教育相談の捉え方を共通理解し、「助言、解決」の前段階を重要視。巡回相談において必要とされていることや実態についての視点をもつために巡回相談についての聞き取り調査を実施した

対象：村山地区特別支援学校のうち大規模校3校

対象選定の理由

- ・職員数が多く、巡回相談を担当する職員も多いため
- ・地域からの相談をコンスタントに受けており、巡回相談に関する体制がある程度整っていることが予想されるため

2 研究の方法と結果

(3) 聞き取り調査

主な質問内容

- ・現在の巡回相談の依頼状況
- ・校内における巡回相談の体制づくり
- ・巡回相談担当者としての思い

2 研究の方法と結果

(3) 聞き取り調査

巡回相談、校内の教育相談体制に関する聞き取り調査

・教育相談担当年数 ・相談担当者数

巡回相談の依頼者や頻度についての実態

1. 現在の巡回相談の状況について

・現在までの主な相談者

☐幼稚園、こども園等 ☐小学校 ☐中学校 ☐高等学校 ☐その他()

・相談の依頼を受ける頻度(月に○回、年に○回…)

2. 校内における巡回相談の体制や進め方について

・巡回相談の体制について(事前打ち合わせや担当者を対象とした研修、実際に訪問する担当者の決め方など)

・担当者への伝達事項(巡回相談の目的や進め方、留意点など)の共有の仕方(マニュアルやチェックリスト、校内研修など)

・教育相談に関して経験の浅い教員が巡回相談に携わることができるようにするための工夫や仕組み(例:相談への同行、役割の調整、事前の研修など)

・巡回相談終了後の、支援についての校内検討会の持ち方や依頼校へのフィードバックや情報共有の進め方

・1つの相談依頼の中での依頼先への訪問の頻度、継続的に訪問して経過を見るような効果測定的な取り組みの実施の有無

巡回相談を担当する教員に対するサポート体制や、進め方などに対する仕組みについての実態

2 研究の方法と結果

(3) 聞き取り調査

3. 教育相談担当者としての思いについて

・巡回相談において難しさを感じる場面

★例えば以下のような場面が考えられますが、印象に残っていることや具体的な例があれば

…巡回相談の前（ニーズの把握、支援の方向性の検討など）

巡回相談当日（児童生徒の観察、担任や関係教員からの聞き取り、助言など）

巡回相談後（校内での情報共有、支援の継続方法の検討など）

・教育相談担当者として、依頼者と円滑な関係を築くために意識していること

・巡回相談を担当する教員に求められる資質や力、姿勢など

巡回相談担当者として、必要だと感じる資質や力
大切にしていきたいこと



相談の中で自分に求められていると感じること

2 研究の方法と結果

(3) 聞き取り調査

①現在の巡回相談の依頼状況

A校	B校	C校
平均すると年に4～6件。 コロナ流行時から急に減少。 就学や転学に関する相談など。	平均すると年に3～4件。 進級後すぐの相談など。	例年10件以上は依頼があるが、 年度初めに依頼される授業研究会の 助言者としての派遣も含まれる。

件数や内容に学校ごとに差はあるが、定期的な相談依頼を受けている

2 研究の方法

(3) 聞き取り調査

②校内における巡回相談の体制や進め方

A校	B校	C校
・毎週特定の曜日の2・3・4校時は「教育相談の日」としている。担当者に向けた事前の研修や打ち合わせなどをこの時間に行ったり、学校訪問したりする。	・教頭や担当者が電話で聞き取った情報を基に事前打ち合わせをしたいが、学校の状況的に困難。 ・事前に収集した情報を回覧し、支援は書面で検討する。	・依頼を受けてから訪問するまでの期間が短いことが多く、事前ケース会を実施したいができない状況。 ・たくさんの支援アイデアを提示できるように、回覧した用紙に思いついた支援をたくさん書いてもらう。

事前打ち合わせやケース会の必要感は強いが、実情は実施が困難

2 研究の方法

(3) 聞き取り調査

②校内における巡回相談の体制や進め方

- ・経験の浅い教員が教育相談に携わるための仕組み

A校	B校	C校
・以前は経験の浅い教員は経験者と2名で担当し、経験者は1名で担当していたが、現在は原則2名で担当。	・原則2名で担当する。 ・県教育センターで実施している研修やHP、県からのリーフレット等を役立てている。 ・「聞き取りシート」の様式を活用している。	・経験の少ない教員や依頼内容が難しいケースなど、不安の声があれば2名で担当する。そのような声を拾えるように気を配っている。 ・「巡回相談聞き取りシート」の様式を活用している。

基本的に2名体制で、安心して担当できる仕組みがある

2 研究の方法

(3) 聞き取り調査

③教育相談担当者としての思い

- ・難しさを感じる事（依頼に関すること）

A校	B校	C校
・「この学校ならではの」の相談が多い。学校として高い専門性を求められていることを感じている。	・当日受けた質問が、こちらの想定していない内容だったときの返答の仕方。持ち帰って検討してから応えたいが、依頼校の都合でそれが難しい場合の対応。	・ニーズの把握。主訴をお話してもらう中で、「もしかしたら躓きはもっと前の段階？」と感ずること多い。 ・相談件数が多く、経過観察も含めると何件も同時進行している。振り返る時間を取りたいのだが、難しい。

専門性が求められる相談への対応の難しさ
依頼校、相談担当者の多忙感も課題

2 研究の方法

(3) 聞き取り調査

③教育相談担当者としての思い

- ・難しさを感じること(内容に関すること)

A校	B校	C校
・特別支援の視点で考えたアイデアを実行しにくいときの対応。体力のない子どもに対して仮眠や別室での活動を勧めるが、通常校ではどうしても実現しにくいことがある。	・担任と保護者の困り感に差があると対応が難しい。 ・依頼校で「大きな問題行動」とされる対象児の様子が、特別支援学校ではよく見られることだった時の対応。どこから伝えていくべきなのか？特別支援教育の視点は全学校にあるわけではないのだと感じる。	・事前の聞き取りからイメージした対象児像が実際とかけ離れていることがある。事前に考えた支援が使えないこともある。 ・依頼校の、障がいについての基礎的知識が不足しているなど感じるとき。知識があれば、もっと支援の幅が広がるのにな、と思う。

特別支援教育に関する知識や経験が少ない依頼校に対する助言の難しさ

2 研究の方法

(3) 聞き取り調査

③教育相談担当者としての思い

- ・心掛けていること

A校	B校	C校
・相談者の困り感に寄り添うこと。 日々孤独やつらさを感じながら頑張っている先生方の、今の頑張りを価値付けることが大切だと感じる。	・相談者が答えやすいことから質問すること。必ず聞きたいのは、「この子の好きなこと/ものは？」 ・一つでもいいところを探すこと。 頑張りを認めること。	・対象児のリソースを積極的に探して伝えること。一見問題行動のように思われることでも、その中にリソースが潜んでいることがある。そこに気付けるようにしたい。

相談者や対象児の良さや頑張り、困り感に意識的に目を向ける
「価値付ける」関わりの大切さ

2 研究の方法

(3) 聞き取り調査

③教育相談担当者としての思い

・巡回相談を担当する教員に向けて

A校

- ・依頼校は、大体はそれぞれの学校でケース会を重ねて様々な支援を試していて、それでも大変さや困難さが根強いために「何か試せることはないでしょうか」と相談が来る。しかし、特別支援教育に共に取り組む同じ立場の教員がいなくて、一人ですべてを抱え込んでいる先生が「とにかく辛い。困っている。話を聴いてほしい。」と相談してくれることもある。**それぞれの場所、立場で困り感は違うけれど、その困り感に寄り添っていけるように**してほしい。今取り組んでいることを共有して、**頑張りを価値付けて**いきたい。
- ・本校の先生方は、どの先生であっても巡回相談に行けると思っている。普段から児童生徒に向き合い、日々指導していく中で磨かれた専門性が、先生方一人一人にある。また、先生方の個性もさまざまである。たくさんのアイデアをもっていて、提案力のある先生。じっくり話を聴くことが得意な先生。**それぞれが自分のもつ専門性を活かし**ながら、巡回相談に行くことができたらいいなと思っている。

2 研究の方法

(3) 聞き取り調査

③教育相談担当者としての思い

- ・巡回相談を担当する教員に向けて

B校

- ・まずは聴くことを大切にしたい。ただ聴いている、というだけではなくて、頷きや繰り返しを使いながら、「話を聴いていますよ」と相手に伝わるようにすること。相手の言葉を繰り返すことで相手の思いを確認することもできる。
- ・依頼校の先生の思いや現在取り組んでいること、試していることの価値を認め、いいところを伸ばしていくことが巡回相談の中で大切なことだと感じている。「大変だ」と感じることは人それぞれ異なるし、環境によっても異なる。特別支援学校では当たり前に行っていることが、通常の学校ではかなり労力を掛けながら頑張っていることだったりする。何もせずに悩んでいる先生なんていない。教室の環境づくりや教材、授業の内容など、様々な部分で試行錯誤してくれている。その頑張りを認める一言を伝えるのが大切。

2 研究の方法

(3) 聞き取り調査

③教育相談担当者としての思い

- ・巡回相談を担当する教員に向けて

C校

- ・担当する先生方にもそれぞれ個性がある。見取りの精度や伝え方にも個人差がある。だから、「とにかく話しやすい雰囲気を作ろう!」と全員で意識しながら取り組んでいる。多様な視点から、たくさんの意見を言い合えるようにしたい。「こんなこと言ってもいいのかな」とバリアを張らずに、まずはアイデアをたくさん出せるように。アイデアを採用するかどうか、実行するかどうかは依頼校の先生が決めること。私たちにできることは、選べる選択肢をたくさん出すことだと思っている。
- ・自分たちが普段当たり前のようになっていることの中には、特別支援教育の視点から見たいろいろな配慮が詰まっているし、普段やっていることにはすべて意図がある。それは実はすごいことなのだと思う。意図と実際の行動を結び付けて言語化することが、特別支援教育の経験や知識の少ない先生方にとって助けになることがあると感じる。

2 研究の方法と結果

(3) 聞き取り調査

聞き取り調査の結果

- ・相談の実態は学校によって異なるが、相談依頼がある。
- ・事前打ち合わせやケース会の開催が求められているが、学校の状態によって困難な場合が多い。
- ・2名体制での学校訪問や情報の聞き取りシートなど、経験の浅い教員をサポートする体制が作られていた。
- ・相談担当者として心掛けていることとして、「相談者や対象児の良さや頑張りを価値付ける関わり」という内容が3校で共通していた。

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

3 見えてきた課題

(1) アンケート調査について

教育相談に関する課題感や意識、学びを求める内容には
教員歴によって異なる傾向が見られた



「教員歴や経験による差」は
「もっている視点、物事の捉え方、見取り方、アセスメントの捉え方の差」と
言える

経験豊富な教員が
経験の浅い教員に教える
一方向な学びの形

転換

互いの強みや工夫などの
良さを共有し、補い合う
双方向な学びの形

3 見えてきた課題

(2) 実践研究

「教員歴や経験の異なる教員同士が
自らの経験や視点を持ち寄って学び合う場」としての校内研修会の実施



- 教育相談を「自分事」として捉え直し、共通理解を図る
 - 自分自身や他の教員の取り組みを価値付ける
 - 他の教員のよい関わりや知識を見て吸収し、学ぶ

3 見えてきた課題

(2) 実践研究

「こんなことで困っているけれど、何をしたらよいか」
アイデアを求める保護者が多かった

★研修内容とサロンの内容にずれが生じた

考えられる要因

- ・その時間での解決を目指さず、「相談者本人の思いを引き出しながら対話を進めること」に重点を置いた研修内容であったこと
(問い掛けによって相談者の言葉から引き出していく経験をすることを重視)



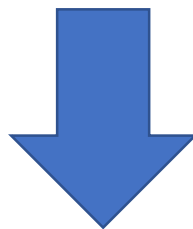
「支援のアイデアを複数提示し、助言を行う」
巡回相談的な視点が必要

3 見えてきた課題

(3) 聞き取り調査

巡回相談において求められていたのは、

- ・支援のアイデアを複数提示する提案力と専門性
- ・依頼先の頑張りやよさを認め、価値付ける関わり



日々の取り組みとその意図を言語化すること
教員一人一人のもつ専門性や経験を共有し、学ぶこと

概要

1 研究のねらい

2 研究の方法と結果

(1) アンケート調査 (2) 実践研究 (3) 聞き取り調査

3 見えてきた課題

4 まとめ、今後に向けて

4 まとめ、今後に向けて

教育相談を「自分事」と捉え、
学校全体でサポートする姿勢

教育相談の
捉え方を
共通理解

継続して取り組み、
全員で学びを積み上げていく

教員の専門性や経験の共有
日々の支援の意図の言語化

学校全体の
教育相談力の
向上

「ベテランが若手に教える」
一方的な学びの形からの脱却
相互に補い合う学び

巡回相談の
視点

経験と学びの
共有
補い合い

4 まとめ、今後に向けて

今回の研究で分かったこと

現在取り組んでいることに焦点
日々の実践を価値付けし合う関わり

継続して「学び合い」を行っていくことの大切さ

「研修会」という形にこだわらず、継続できる小さな取り組みが求められる

巡回相談後のケース会に、
全員で取り組んでみる？

実態の情報共有も兼ねて、
児童のケース会を定期的に行う？



相談を担当した先生から、
気付いたことを話してもらう？

学部会等の会議の中で、
3分程度で「最近の相談対応
での気づき」をペアトークする？

Slackやチャットを使って、
日頃の疑問を短く意見交換？

参考文献（全体を通して）

- ・文部科学省 教育相談等に関する調査研究協力者会議（2009）
『児童生徒の教育相談の充実について—生き生きとした子どもを育てる相談体制づくり—（報告）』
- ・文部科学省（2022）『生徒指導提要』
- ・文部科学省 中央教育審議会（2021）
『「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて』
- ・大塚弥生（2021）
「教育相談に向けた教員の態度養成—ナラティブ・アプローチを取り入れた教育相談研修—」
南山大学教職センター紀要（8）
- ・黒沢幸子（2002）『指導援助に役立つスクールカウンセリング・ワークブック』金子書房
- ・角田真紀子（2019）「教師の「教育相談」の在り方と方法についての比較的検討：文部省・文部科学省の資料を中心とした教師の「態度・姿勢」に注目して」
専修大学人文科学研究所月報 302 53頁～90頁
- ・中島正雄（2012）「教師の教育相談研修に関する研究」
神奈川大学心理・教育研究論集 第32号

参考文献（全体を通して）

- ・福永名津・瀬戸健一（2020）「教育相談研修の研究ーショートストーリー法に着目してー」
三重大学教育学部研究紀要 第71巻 教育実践（2020） 503頁～514頁
- ・森俊夫（2000）『先生のためのやさしいブリーフセラピー』ほんの森出版
- ・森俊夫（2001）『“問題行動の意味”にこだわるより“解決志向”で行こう』ほんの森出版

参考文献（アンケート調査）

- ・大井雄平（2022）「教育相談の今日的意義、課題と展開」
常葉大学教育学部紀要（43） 105頁～111頁
- ・笠井孝久（2015）「教育相談に対して教師が直面する困難」
千葉大学教育学部研究紀要 63 187頁～197頁
- ・春日由美・長谷和久・阿濱茂樹・池永亜由美・大園悦子・河原咲子・来島芳子・宮田帆乃香（2024）
「教員の教育相談の資質修得過程と教育相談の具体的工夫」
山口大学教育学部付属教育実践総合センター研究紀要 第58号
- ・春日由美・三原茉綸（2022）「教員における保護者との信頼関係づくりー教員と保護者双方への調査からー」
山口大学教育学部研究論叢 第71巻 31頁～40頁
- ・春日由美（2018）「教師の教育相談に関する困難感および自他意識との関連に関する一研究」
南九州大学人間発達研究 南九州大学人間発達学部 編8 57頁～65頁
- ・久米禎子（2022）
「学校教育相談に求められる能力と研修ー教師自身が捉える教育相談及び教育相談研修の現状と課題ー」
鳴門教育大学学校教育研究紀要 36 21頁～28頁

参考文献（実践研究）

- ・鹿児島県総合教育センター（2016）「指導資料 教育相談第136号 信頼関係を築く保護者相談の在り方」
- ・春日由美（2016）「教師の教育相談的資質向上研修における効果研究」
南九州大学人間発達研究 南九州大学人間発達学部 編6 63頁～70頁
- ・金山元春・中川真身（2016）「教員のリソースを喚起する教育相談研修の試み」
教育カウンセリング研究7（1） 59頁～68頁
- ・勝田みな（2021）
「教育相談における現状と課題ー保育者・小学校教員養成校の学制が身に付けておきたい対応とはー」
名古屋経営短期大学紀要 第62号 17頁～29頁
- ・小松茂（2017）「教師教育における教育相談及び事例研究の意義」
立命館教職教育研究紀要 83頁～89頁
- ・桜井美加・齋藤ユリ・森平直子（2016）『教育相談ワークブッケー子どもをはぐくむ人になるために【新版】』北樹出版
- ・生井光治（2025）『保護者対応 信頼はぐくむ教師の「聞く力」』学芸みらい社
- ・浜内彩乃（2024）『ステップアップカウンセリングスキル集ー今さら聞けない12の基礎技法』誠信書房

参考文献（実践研究）

- ・諸富祥彦（2022）

『先生のための保護者相談ハンドブックー配慮を要する子どもの保護者とつながる3つの技術』学苑社

- ・米田薫（2008）「教育センターにおける教育相談研修に関する研究」

教育カウンセリング研究（2）Ⅰ 26頁～33頁

- ・渡部昌平（2018）「教育相談にブリーフカウンセリングとリフレクティングチームを導入する効果」

教育カウンセリング研究9（1）53頁～56頁

参考文献（聞き取り調査）

- ・足利市立教育研究所（2013）『学校における教育相談ハンドブック』
- ・春日由美・小野陽子（2022）
「教員における教育相談及び教員自身の相談することに関する意識」
山口大学教育学部研究論叢 第71巻 21頁～30頁
- ・豊岡崇志・石津憲一郎（2017）「教育相談体制の充実についての検討ーカウンセリング指導員の役割に注目してー」
富山大学人間発達科学研究実践総合センター紀要 教育実践研究 第12号 53頁～68頁
- ・宗形奈津子（2022）『特別支援教育の巡回相談員の仕事』 デザインエッグ株式会社